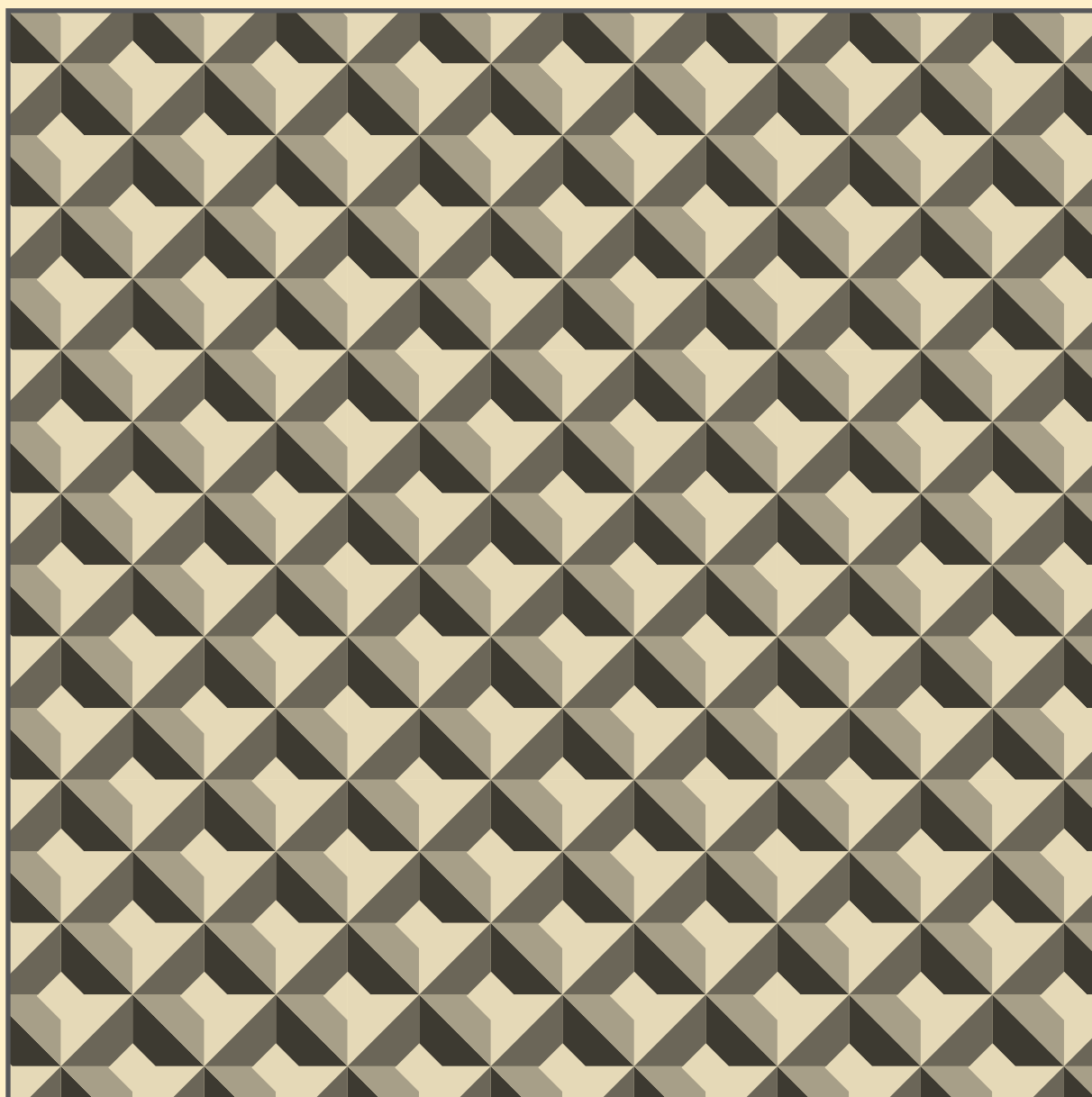

2014年度

シラバス

免許課程



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

科目の授業内容は、目次で検索してください。

目次の科目は、各課程別の授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

曜日・時間・教室も記載されていますが、変更になる場合がありますので、教務課前掲示板で確認してください。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。注意してください。

②目次の「備考」の表記

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

環：国際環境経済学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

③履修開始学年・学期

目次の「学年・学期」欄に記載されています。

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

03年度以降・・・2003～2014年度入学者

07年度以降・・・2007～2014年度入学者

08年度以降・・・2008～2014年度入学者

09年度以前・・・2003～2009年度入学者

09年度以降・・・2009～2014年度入学者

10年度以降・・・2010～2014年度入学者

11年度以前・・・2003～2011年度入学者

12年度以降・・・2012～2014年度入学者

13年度以降・・・2013年度以降入学者

②入学年度、学部学科に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修科目

入学年度や学部学科により、履修する科目及び科目名が異なります。

免許科目の履修に際しては、「履修の手引(免許課程)」で履修科目を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。定員および備考欄を確認してください。

備考欄に「抽選」と記載されている科目は、抽選結果を必ず確認してください。

③時間割コード・教室

履修上の注意点については、時間割冊子にまとめられています。まずは熟読してください。

2014年度より、免許科目については、時間割コード・教室もシラバス冊子目次に掲載されています。

2014年度 免許課程 年間行事予定表

凡例 【教職】:教職課程、【介護】:介護等体験、【教実】:教育実習、【司書】:司書課程、【司教】:司書教諭

	No.	区分	行事	対象	日付	時間	教室、備考等
1 学 年	1		教職課程ガイダンス	全学部	4月4日(金)	9:30～10:30	E-102:外国語学部 E-101:国際教養学部・経済学部・法学部 「免許課程シラバス」配付。
	2	【教職】	教職課程登録(課程費納付)	登録希望者のみ	4月5日(土)～11日(金)	9:00～18:30	証明書自動発行機で納付。申請書は提出不要。
	3		「教職課程ファイル」配付	教職課程登録者	「教職論」授業時		担当教員から配付日連絡。履修していない場合は、配付方法を教務課免許課程掲示板で確認。
	4	【司書】 【司教】	司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月4日(木)	12:25～13:10	A-408、昼食持込可。
2 学 年	5	【司書】	司書課程ガイダンス(履修手続き)	全学部	3月28日(金)	11:15～12:15	E-101、「履修の手引」「成績通知表」持参のこと。
	6	【教職】 【司教】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月28日(金)	12:30～13:30	E-102、「教職課程ファイル」持参のこと。 「免許課程シラバス」配付。
	7	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教諭課程、 司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月28日(金)～4月11日(金)		証明書自動発行機で納付。教職課程のみ面談用紙および申請書を提出すること。
	8		介護等体験申込ガイダンス	2015年度体験予定者	10月14日(火) 10月16日(木)	12:25～13:10	E-205、昼食持込可。いずれかに出席のこと。 欠席した場合は2015年度の体験不可。
	9	【介護】	介護等体験実習費用納付 実習希望調査	2015年度体験予定者	10月15日(水) ～31日(金)	9:00～17:00 土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。
	10		風疹・麻疹抗体検査申込手続き	2015年度体験予定者	10月15日(水)～31日(金)		証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センターに提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の項参照)
	11	【司書】 【司教】	司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月4日(木)	12:25～13:10	A-408、昼食持込可。
3 学 年	12	【司書】	司書課程ガイダンス(履修手続き)	全学部	3月28日(金)	11:15～12:15	E-101、「履修の手引」「成績通知表」持参のこと。
	13	【教職】 【司教】 【介護】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス (介護等体験(2日間)関連説明・教員採用試験に向けてを含む)	全学部	3月28日(金)	15:00～16:00	E-102、「教職課程ファイル」持参のこと。 「教育実習の指針」「免許課程シラバス」配付。介護等体験(2日間)関連手続き資料配付。
	14	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教諭課程、 司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月28日(金)～4月11日(金)		証明書自動発行機で納付。面談用紙および申請書を提出すること。
	15		介護等体験開始ガイダンス	2014年度体験予定者	4月17日(木) 4月22日(火)	12:25～13:10	E-101、昼食持込可。いずれかに出席のこと。 欠席した場合は2014年度の体験不可。
	16			2014年5月～7月 介護体験予定者	5月13日(火)	12:25～13:10	E-101、昼食持込可 欠席した場合は2014年度の体験不可。
	17	【介護】	介護等体験直前ガイダンス (5日間もしくは2日間いずれか早い日程 に合わせて出席すること)	2014年8月～10月 介護体験予定者	7月8日(火)	12:25～13:10	E-101、昼食持込可 欠席した場合は2014年度の体験不可。
	18			2014年11月以降 介護体験予定者	10月7日(火)	12:25～13:10	E-101、昼食持込可 欠席した場合は2014年度の体験不可。
	19		教育実習校開拓	2015年度教育実習予定者	教職課程ガイダンス以降速やかに		各自が自主的に実習校を開拓 (遅くとも4月中に開拓を開始すること)
	20		「教育実習依頼状交付願」 「教育実習者登録票」提出	2015年度教育実習予定者	5月12日(月)以降開拓 できた者から随時	月～金 9:00～17:00	必要書類を教務課免許課程係に提出。 ('英語')については、英語資格の要件を満たしていること)
	21		「教育実習依頼状」交付	2015年度教育実習予定者	5月26日(月)以降	9:00～17:00 土のみ12:00まで	教務課免許課程係で受取。 交付は提出週の翌々週(月)以降9:00～17:00、土は12:00まで。
	22	【教実】	「教育実習依頼状」を実習校に持参 (正式依頼)	2015年度教育実習予定者	5月26日(月)以降随時		交付後、速やかに実習校に提出すること。
	23		教育実習校(中学校)幹旋願提出 (未開拓者)	2015年度教育実習予定者	9月24日(水) ～10月7日(火)	9:00～17:00 土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。
	24		教育実習校(中学校)幹旋者 選考試験	2015年度教育実習予定者	10月16日(木)	11:30～12:30	教職・司書相談室(中央棟1階)
	25		風疹・麻疹抗体検査申込手続き	2015年度教育実習予定者 (前年度抗体検査未提出者)	10月15日(水)～31日(金)		証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センターに提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の項参照)
	26	【司書】 【司教】	司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月4日(木)	12:25～13:10	A-408、昼食持込可
	27	【教実】	風疹・麻疹抗体検査提出期限	2015年度教育実習予定者 (前年度抗体検査未提出者)	検査結果交付日 ～2015年1月31日(土)	9:00～17:00 土のみ12:00まで	抗体検査結果を確認し、抗体がある場合は、検査結果用紙のコピーを教務課免許課程係に提出。抗体がない場合は、予防(ワクチン)接種の上、抗体検査結果用紙と予防接種を受けた証明書をコピーして、教務課免許課程係に提出。
4 学 年	28	【教職】 【司教】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2014年度教育実習を 行わない者	3月28日(金)	15:00～16:00	E-101、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」持参のこと。「免許課程シラバス」配付。 ガイダンス終了後、介護等体験(2日間)関連説明・資料配付。
	29		教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2014年度教育実習予定者	3月28日(金)	15:00～16:00	E-101、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」持参のこと。 「教育実習日誌」・「免許課程シラバス」配付。
	30		教育実習オリエンテーション①	2014年度教育実習予定者	3月28日(金)	16:00～17:30	E-101、終了後介護等体験を実施する学生は介護等体験(2日間)関連説明・資料配付も併せて行う。
	31		教育実習オリエンテーション②		3月29日(土)	9:00～16:30	「教育実習日誌」オリエンテーションのページ参照。
	32		教育実習期間報告書の提出	2014年度教育実習予定者	4月14日(月)まで		教務課免許課程係に提出。
	33		教育実習校との打合せ	2014年度教育実習予定者	実習開始2～3週間前		各自実習校に確認。
	34	【教実】	教育実習指導教員発表	2014年度教育実習予定者	5月12日(月)	10:30～	教務課免許課程掲示板で確認。
	35		「教育実習訪問指導教員 事前面談用紙」提出	2014年度教育実習予定者 (該当者のみ)	各自の教育実習開始7日前まで		指導教員と訪問指導日程等を打合せし、指定用紙を教務課免許課程係に提出。
	36		教育実習事前指導面接	2014年度教育実習予定者	各自の教育実習 開始7日前まで	11:30～13:00	教職・司書相談室(中央棟1階) 5～6月は面接予定者が多いため、早めに事前指導面接を受け、 実習に備えること。
	37		教育実習 (中学校または高等学校)	2014年度教育実習予定者	日程は実習校によって異なる		
	38		教育実習日誌提出	2014年度教育実習予定者	期日・提出方法は、「教職実践演習(中・高)」の授業内で指示する。		
	39		教育職員採用試験面接対策講座	教育職員採用試験 受験希望者	7月下旬～8月上旬 (予定)	学内指定教室	日程が決定次第、教務課免許課程掲示板で告知する。
	40	【教職】	教育職員免許状一括申請説明会 (書類配付)	全学部	10月2日(木)	12:25～13:10	E-101、昼食持込可。
	41		教育職員免許状一括申請受付 (手数料納付・書類提出)	全学部	10月3日(金)～31日(金)		必要書類を揃え、教務課免許課程係に提出。
	42	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教諭課程修了者発表 司書課程修了者発表	全学部	2015年3月4日(水)	10:30～	中央棟北側掲示板(予定)
	43	【教実】	教育実習日誌返却	全学部	2015年3月4日(水)以降		教務課免許課程係
	44	【司教】	「司書教諭課程修了証」申請受付	司書教諭課程修了者	2015年3月4日(水)～20日(金)		教務課免許課程係
	45	【教職】 【司書】	教育職員免許状授与(一括申請者) 司書課程修了書授与	全学部	2015年3月20日(金)		卒業式当日(学位記と一緒に交付)

※上記日程・教室については、変更になる場合があるので、随時「教務課免許課程掲示板」で確認すること。

教職・司書相談室について

獨協大学では、教職・司書・司書教諭課程履修者をサポートするため、教職・司書相談室（中央棟 1 階）を開設しています。

ここには教職、司書、司書教諭課程に関する資料や教科書・参考書が用意されています。開室時間内は自由に閲覧できます。

また、同課程履修者を主たる対象に、専門家である教員が個別面談に応じています。教員という仕事、気になる教育実習や教員採用試験、図書館で働くにはどうすれば良いか、など気になることを質問できます。もちろん、教職、司書、司書教諭課程を登録・履修するか迷っている学生も質問可能です。学科・学年を問わず広く開放されており、事前の予約は必要ありませんので、適宜利用してください。

なお、履修登録の方法や成績通知、教育実習の前提条件などの履修に関する質問は、教務課免許課程係（東棟 1 階）にご相談ください。

○開室時間：月～金 9：00～17：00
土 9：00～13：00

○場 所：中央棟 1 階

○個別面談：春学期 2014 年 4 月 7 日（月）～2014 年 7 月 19 日（土）
秋学期 2014 年 9 月 24 日（水）～2015 年 1 月 20 日（火）

課程	曜日	面談時間	担当教員
教職	月	11：30～13：00	桑原 憲一
	火	11：30～13：00	J. J. ダゲン
	水	11：30～13：00	岩崎 充益
	木	11：30～13：00	秋本 弘章
	金	11：30～13：00	小島 優生【秋学期のみ】
	土	11：30～13：00	及川 良一
司書・司書教諭	火	11：30～13：00	福田 求

注）担当教員の都合により、休講になる場合があります。相談室入口の掲示で確認してください。

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

《教職に関する科目》

※2009年度以前入学者カリキュラムのみ適用科目

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06900	教職論	2	春	月3	桑原 憲一	E-101	-	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	火5	高瀬 幸恵	5-100	-	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原 憲一	E-101	-	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論_再履修	2	春	火4	高瀬 幸恵	5-100	-	再履修者用、養は自学科 科目で再履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	火4	高瀬 幸恵	5-100	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	火5	高瀬 幸恵	5-100	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村 肇	E-202	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	06910	教職心理学	2	春	火4	白砂 佐和子	A-207	-	交履修不可、養は自学科 科目で履修	3
1-1	06908	教職心理学	2	春	金1	田口 雅徳	A-207	-	交履修不可、養は自学科 科目で履修	3
1-1	06911	教職心理学	2	秋	火4	白砂 佐和子	A-206	-	交履修不可、養は自学科 科目で履修	3
1-1	06909	教職心理学	2	秋	金1	田口 雅徳	A-207	-	交履修不可、養は自学科 科目で履修	3
1-1	19844	教育心理学	2	春	火4	白砂 佐和子	A-207	-	交のみ履修可	3
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口 雅徳	A-207	-	交のみ履修可	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	火4	白砂 佐和子	A-206	-	交のみ履修可	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口 雅徳	A-207	-	交のみ履修可	3
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原 憲一	E-101	-	養は自学科科目で履修	4
2-3	06915	教育制度	2	春	火3	桑原 憲一	5-207	-	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	木5	小島 優生	E-313	-	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原 憲一	6-101	-	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井 一郎	5-206	-	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火5	桑原 憲一	6-101	-	養は自学科科目で履修	5
3-5	06920	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	2	春	火1	金井 満	5-101	-		6
3-5	06921	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火1	金井 満	5-101	-		6
3-5	21669	英語科教科教育法Ⅰ	2	春	月5	浅岡 千利世	A-401	30	独・英・仏のみ履修可、 春・秋セット履修、先着順	8
3-5	21674	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	月5	浅岡 千利世	A-401			8
3-5	21668	英語科教科教育法Ⅰ	2	春	火5	E. 本橋	A-403	30	独・英・仏のみ履修可、 春・秋セット履修、先着順	8
3-5	21672	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火5	E. 本橋	A-403			8
3-5	21667	英語科教科教育法Ⅰ	2	春	水1	J. J. ダゲン	6-406	30	独・英・仏のみ履修可、 春・秋セット履修、先着順	8
3-5	21673	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	水1	J. J. ダゲン	6-406			8
3-5	21670	英語科教科教育法Ⅰ	2	春	木1	羽山 恵	E-204	30	独・英・仏のみ履修可、 春・秋セット履修、先着順	8
3-5	21671	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	木1	羽山 恵	E-204			8
2-3	14259	英語科教科教育法Ⅰ	2	秋	火1	羽山 恵	A-507	60	交のみ履修可、先着順	7
2-3	20885	英語科教科教育法Ⅰ	2	秋	土2	日野 克美	E-204	60	交のみ履修可、先着順	7

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5	23702	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	月5	浅岡 千利世	A-401	30	交のみ履修可、春・秋セッ ト履修、先着順	8
3-5	23707	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	月5	浅岡 千利世	A-401			8
3-5	23709	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	火5	E. 本橋	A-403	30	交のみ履修可、春・秋セッ ト履修、先着順	8
3-5	23705	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	火5	E. 本橋	A-403			8
3-5	23708	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水1	J. J. ダゲン	6-406	30	交のみ履修可、春・秋セッ ト履修、先着順	8
3-5	23706	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水1	J. J. ダゲン	6-406			8
3-5	23703	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	木1	羽山 恵	E-204	30	交のみ履修可、春・秋セッ ト履修、先着順	8
3-5	23704	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	木1	羽山 恵	E-204			8
2-3	14024	英語科教科教育法Ⅰ	2	秋	火2	安間 一雄	5-202	-	養・経・法のみ履修可	7
3-5	14025	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水2	臼井 芳子	E-308	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	8
3-5	22260	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水2	安間 一雄	E-521	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	8
3-5	22259	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	8
3-5	14026	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	8
3-5	06932	フランス語科教科教育法Ⅰ	2	春	木1	中村 公子	A-502	-		9
3-5	06933	フランス語科教科教育法Ⅱ	2	秋	木1	中村 公子	A-502	-		9
2-3	06934	社会科教育法Ⅰ	2	春	月1	秋本 弘章	E-312	-		10
3-5	06935	社会科教育法Ⅱ	2	春	火2	秋本 弘章	E-312	-		11
3-5	06936	社会科教育法Ⅲ	2	秋	火2	秋本 弘章	E-312	-		11
2-3	06939	地理・歴史科教育法Ⅰ	2	秋	土1	鈴木 孝	E-312	-		12
3-5	06940	地理・歴史科教育法Ⅱ	2	秋	木1	秋本 弘章	E-312	-		13
3-5	06941	地理・歴史科教育法Ⅲ	2	春	月5	會田 康範	E-312	-		14
3-5	06937	公民科教育法Ⅰ	2	春	水3	海野 省治	6-307	-		15
3-5	06938	公民科教育法Ⅱ	2	秋	水3	海野 省治	6-307	-		15
3-5	06942	情報科教育法Ⅰ	2	春	月2	秋本 弘章	E-411	-		16
3-5	06943	情報科教育法Ⅱ	2	秋	月2	秋本 弘章	E-411	-		16
3-5	13333	教科教育法特論Ⅰ(ドイツ語)	2	春	金4	上田 浩二	E-307	-	独以外履修可	17
3-5	14257	教科教育法特論Ⅰ(英語)	2	秋	土2	日野 克美	E-204	60	独・仏のみ履修可、先着 順	7
3-5	14258	教科教育法特論Ⅰ(英語)	2	秋	火1	羽山 恵	A-507	60	独・仏のみ履修可、先着 順	7
3-5	14260	教科教育法特論Ⅰ(フランス語)	2	春	木2	中村 公子	6-404	-	仏以外履修可	18
3-5	09110	教科教育法特論Ⅰ(社会)	2	春	月4	安井 一郎	E-403	-	外・養のみ履修可	19
3-5	13334	教科教育法特論Ⅱ(ドイツ語)	2	秋	金4	上田 浩二	E-307	-	独以外履修可	17
3-5	09111	教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	春	木2	J. J. ダゲン	E-506	-	独・仏のみ履修可	20
3-5	06945	教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	秋	木2	J. J. ダゲン	E-506	-	独・仏のみ履修可	20
3-5	19419	教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	春	水2	安間 一雄	E-301	-	養・経・法のみ履修可	21
3-5	14261	教科教育法特論Ⅱ(フランス語)	2	秋	木2	中村 公子	6-404	-	仏以外履修可	18

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	06949	道德教育の研究	2	春	月3	安井 一郎	5-207	-	中学校1種免許状は必修	22
2-3	06947	道德教育の研究	2	春	木2	安井 一郎	E-304	-	中学校1種免許状は必修	22
2-3	06948	道德教育の研究	2	秋	木4	小島 優生	E-313	-	中学校1種免許状は必修	22
2-3	06952	特別活動	2	春	土3	及川 良一	5-208	-	独・英・仏・養・経・律・国 のみ履修可	23
2-3	06950	特別活動	2	秋	月3	桑原 憲一	E-101	-	独・英・仏・養・経・律・国 のみ履修可	23
2-3	06953	特別活動	2	秋	土3	及川 良一	5-208	-	独・英・仏・養・経・律・国 のみ履修可	23
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原 憲一	E-101	-	交・総のみ履修可	23
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川 良一	5-208	-	交・総のみ履修可	23
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川 良一	5-208	-	交・総のみ履修可	23
2-3	06955	教育方法学	2	春	火1	安井 一郎	5-100	-		24
2-3	06956	教育方法学	2	春	金3	町田 喜義	E-308	-		24
2-3	06954	教育方法学	2	秋	金3	町田 喜義	E-308	-		24
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原 憲一	6-101	-		25
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川 良一	E-304	-		25
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川 良一	E-304	-		25
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	木2	瀧本 孝雄	5-100	-	養は自学科科目で履修	26
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	木2	瀧本 孝雄	5-100	-	養は自学科科目で履修	26
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木 乙史	E-312	-	養は自学科科目で履修	26
3-5		総合演習	2			2014年度不開講		-	2009年度以前入学者カリ キュラム	-
3-6	06975	教育実習論(事前・事後指導)	2	春	木2	川村 肇	5-105	25	特段の事情がある者のみ 履修可、先着順	27
3-6	08750	教育実習論 I (事前指導)※	2	春	木2	川村 肇	5-105		特段の事情がある者のみ 履修可、先着順	
3-6	06976	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	月3	安井 一郎	E-521	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
3-6	21838	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	月3	安井 一郎	E-521		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	
3-6	06977	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	火1	安井 一郎	E-509	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
3-6	08752	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	火1	安井 一郎	E-509		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	
3-6	06979	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水1	岩崎 充益	5-202	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
3-6	08754	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	水1	岩崎 充益	5-202		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	
3-6	06978	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水4	岩崎 充益	5-202	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
3-6	08753	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	水4	岩崎 充益	5-202		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	
3-6	21839	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	木2	川村 肇	5-105	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
3-6	08751	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	木2	川村 肇	5-105		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	
3-6	06974	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	金3	小島 優生	A-408	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
3-6	08749	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	金3	小島 優生	A-408		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	
4-7	07608	教育実習 I	2	集中	-	教職課程	-	-		-
4-7	07609	教育実習 II	2	集中	-	教職課程	-	-		-

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
4-8	14262	教職実践演習(中・高)	2	春	木2	川村 肇	5-105	25	特段の事情がある者のみ履修可、先着順	28
4-8	09113	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	春	木2	川村 肇	5-105		特段の事情がある者のみ履修可、先着順	
4-8	22250	教職実践演習(中・高)	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312	25	先着順、2010年度以降入学者のみ履修可	28
4-8	06980	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312		先着順、2009年度以前入学者のみ履修可	
4-8	22252	教職実践演習(中・高)	2	秋	火4	桑原 憲一	E-311	25	先着順、2010年度以降入学者のみ履修可	28
4-8	19820	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	火4	桑原 憲一	E-311		先着順、2009年度以前入学者のみ履修可	
4-8	22249	教職実践演習(中・高)	2	秋	水2	安井 一郎	E-308	25	先着順、2010年度以降入学者のみ履修可	28
4-8	09112	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	水2	安井 一郎	E-308		先着順、2009年度以前入学者のみ履修可	
4-8	22251	教職実践演習(中・高)	2	秋	木2	川村 肇	5-105	25	先着順、2010年度以降入学者のみ履修可	28
4-8	12782	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	木2	川村 肇	5-105		先着順、2009年度以前入学者のみ履修可	
4-8	22248	教職実践演習(中・高)	2	秋	木2	安井 一郎	E-304	25	先着順、2010年度以降入学者のみ履修可	28
4-8	12783	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	木2	安井 一郎	E-304		先着順、2009年度以前入学者のみ履修可	
4-8	22253	教職実践演習(中・高)	2	秋	金3	小島 優生	A-408	25	先着順、2010年度以降入学者のみ履修可	28
4-8	06981	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	金3	小島 優生	A-408		先着順、2009年度以前入学者のみ履修可	

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

《教科又は教職に関する科目》

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	29
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	30
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	30
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	31
2-3	07022	情報メディアの活用※	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録者のみ履修可	32
2-3	07021	情報メディアの活用※	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録者のみ履修可	32
2-3	06998	生涯学習概論(2011年度以前)	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	-	司書課程登録者(2011年度以前入学者)のみ履修可	33
2-3	22670	生涯学習概論(2012年度以降)	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	-	司書課程登録者(2012年度以降入学者)のみ履修可	33
2-3	06949	道德教育の研究	2	春	月3	安井 一郎	5-207	-	高校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	22
2-3	06947	道德教育の研究	2	春	木2	安井 一郎	E-304	-	高校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	22
2-3	06948	道德教育の研究	2	秋	木4	小島 優生	E-313	-	高校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	22
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金3	山口 友佑	5-201	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金4	山口 友佑	5-201	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	水2	山岸 倫子	6-203	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34
2-3	12780	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	水3	山岸 倫子	6-305	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34

※抽選結果を確認すること。

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

《教科に関する科目》

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説Ⅰ	2	春	月4	會田 康範	E-312	-		35
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田 康範	E-312	-		35
1-1	06984	外国史概説Ⅰ	2	秋	金5	兼田 信一郎	E-201	-		36
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金3	久慈 栄志	5-301	-		37
1-1	06986	地理学概説Ⅰ	2	春	火1	秋本 弘章	E-312	-		38
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本 弘章	E-312	-		38
1-1	06988	地誌学概説Ⅰ	2	春	水1	秋本 弘章	E-312	-		39
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本 弘章	E-312	-		39
2-3	07023	法律学概説Ⅰ	2	春	水2	大川 俊	E-206	-	経・法履修不可	40
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	水2	木藤 茂	E-206	-	経・法履修不可	40
2-3	07025	政治学概説Ⅰ	2	春	木1	杉田 孝夫	5-207	-	経・法履修不可	41
2-3	07026	政治学概説Ⅱ	2	秋	木1	杉田 孝夫	5-207	-	経・法履修不可	41
1-1	07027	社会学概説Ⅰ※	2	春	土1	岡村 圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	42
1-1	07028	社会学概説Ⅱ※	2	秋	土1	岡村 圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	42
2-3	07029	哲学概説Ⅰ	2	春	火5	河口 伸	6-303	-		43
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口 伸	6-303	-		43
1-1	07031	倫理学概説Ⅰ※	2	春	月4	川口 茂雄	E-205	300	養は自学科科目で履修	44
1-1	07032	倫理学概説Ⅱ※	2	秋	月4	川口 茂雄	A-207	300	養は自学科科目で履修	44
2-3	07033	宗教学概説Ⅰ	2	春	木5	河口 伸	6-303	-		45
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口 伸	6-303	-		45
1-1	07104	心理学概説Ⅰ※	2	春	木2	田口 雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	46
2-3	07105	心理学概説Ⅱ※	2	秋	木4	田口 雅徳	6-201	100	養は自学科科目で履修	46

※抽選結果を確認すること。

2008～2012年度入学対象 「教科に関する科目」の全学共通授業科目対応表

以下の「教科に関する科目」の履修は、対応する全学共通授業科目を履修登録してください。

時間割コード等は、所属学科の『2014年度授業時間割表』の「曜日・時限別時間割」のページを参照してください。

履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)	春	金3	田村 斉敏
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	秋	木4	片山 亜紀
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳の仕事)	春	土2	中島 直美
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳の仕事)	秋	土2	中島 直美
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(中世の仏教と社会)	春	木4	新井 孝重
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(中世の「悪党」と民衆)	秋	木4	新井 孝重
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	春	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	秋	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	春	木3	熊谷 哲也
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	秋	木3	熊谷 哲也
経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(中国史a)	春	木4	張 士陽
経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(中国史b)	秋	木4	張 士陽
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(ヨーロッパ史1)	春	月1	上村 敏郎
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(ヨーロッパ史2)	秋	月1	上村 敏郎
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	春	金3	佐藤 唯行
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1(歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	秋	金3	佐藤 唯行
法(総)	社会・地歴	歴史と文化1(教育の歴史1)	歴史と文化1(教育の歴史1)	春	水3	川村 肇
法(総)	社会・地歴	歴史と文化1(教育の歴史2)	歴史と文化1(教育の歴史2)	秋	水3	川村 肇
法(総)	社会・地歴	歴史と文化1(日本思想史1)	歴史と文化1(日本思想史1)	-	-	2014年度不開講
法(総)	社会・地歴	歴史と文化1(日本思想史2)	歴史と文化1(日本思想史2)	-	-	2014年度不開講
法(総)	社会・地歴	歴史と文化1(文化史入門)	歴史と文化1(文化史入門)	-	-	2014年度不開講
法	社会・地歴	ことばと思想1(社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古代から近世まで)	春	水2	松丸 壽雄
法	社会・地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで)	秋	水2	松丸 壽雄
養・法	社会・地歴	ことばと思想1(社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(市民的社会像の黎明期)	春	火4	市川 達人
養・法	社会・地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(市民的社会像の確立期)	秋	火4	市川 達人
養・経・法	社会・地歴	現代社会1(地理学1)	現代社会1(地理学1)(自然環境と文化)	春	水2	秋本 弘章
養・経・法	社会・地歴	現代社会1(地理学2)	現代社会1(地理学2)(自然環境と文化)	秋	水2	秋本 弘章
経・法	社会・地歴	現代社会1(地理学1)	現代社会1(地理学1)(世界の自然環境と文化)	春	金4	北崎 幸之助
経・法	社会・地歴	現代社会1(地理学2)	現代社会1(地理学2)(世界の自然環境と文化)	秋	金4	北崎 幸之助

履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
法(総)	社会・地歴	現代社会1(地誌学1)	現代社会1(地誌学1)(ヨーロッパ地域論)	春	木3	飯嶋 曜子
法(総)	社会・地歴	現代社会1(地誌学2)	現代社会1(地誌学2)(ドイツ地域論)	秋	木3	飯嶋 曜子
養・法	社会・公民	現代社会1(経済学1)	現代社会1(経済学1)(はじめての経済学)	春	月1	黒木 亮
養・法	社会・公民	現代社会1(経済学2)	現代社会1(経済学2)(はじめての経済学)	秋	月1	黒木 亮
養・法(総)	社会・公民	現代社会1(経済学1)	現代社会1(経済学1)(ミクロの視点で考える)	春	火4	浜本 光紹
養・法(総)	社会・公民	現代社会1(経済学2)	現代社会1(経済学2)(マクロの視点で考える)	秋	火4	浜本 光紹
養・経	社会・公民	現代社会1(国際法1)	現代社会1(国際法1)(国際社会と私たち)	春	月1	一之瀬 高博
養・経	社会・公民	現代社会1(国際法2)	現代社会1(国際法2)(国際紛争を考える)	秋	月1	一之瀬 高博
養	社会・公民	現代社会1(民法1)	現代社会1(民法1)	春	月2	小川 佳子
養	社会・公民	現代社会1(民法2)	現代社会1(民法2)	秋	月2	小川 佳子
養	社会・公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	春	火2	加藤 一彦
養	社会・公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	秋	火2	加藤 一彦
養	社会・公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	春	金3	古関 彰一

※履修対象学科に定められている学科のみ、科目が適用されます。

2008～2012年度入学者対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）の単位を修得しなければなりません。
所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法に定める科目	所属	科目群	科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	全学共通授業科目	現代社会1(日本国憲法)	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。
	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。
体育	全学部	全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業科目「スポーツ・レクリエーション」を参照の上、登録すること。
外国語コミュニケーション	所属によって異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。
情報機器の操作	所属によって異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教職に関する科目≫

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06900	教職論	2	春	月3	桑原 憲一	E-101	-	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	火5	高瀬 幸恵	5-100	-	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原 憲一	E-101	-	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論	2	春	火4	高瀬 幸恵	5-100	-	再履修者用、養は自学科科目で再履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	火4	高瀬 幸恵	5-100	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	火5	高瀬 幸恵	5-100	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村 肇	E-202	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	19844	教育心理学	2	春	火4	白砂 佐和子	A-207	-	養は自学科科目で履修	3
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口 雅徳	A-207	-	養は自学科科目で履修	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	火4	白砂 佐和子	A-206	-	養は自学科科目で履修	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口 雅徳	A-207	-	養は自学科科目で履修	3
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原 憲一	E-101	-	養は自学科科目で履修	4
2-3	06915	教育制度	2	春	火3	桑原 憲一	5-207	-	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	木5	小島 優生	E-313	-	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原 憲一	6-101	-	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井 一郎	5-206	-	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火5	桑原 憲一	6-101	-	養は自学科科目で履修	5
3-5		ドイツ語科教科教育法Ⅰ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		ドイツ語科教科教育法Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		ドイツ語科教科教育法Ⅲ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		ドイツ語科教科教育法Ⅳ	2			2014年度不開講		-		-
2-3	14259	英語科教科教育法Ⅰ	2	秋	火1	羽山 恵	A-507	60	外のみ履修可、先着順	7
2-3	20885	英語科教科教育法Ⅰ	2	秋	土2	日野 克美	E-204	60	外のみ履修可、先着順	7
2-3	14024	英語科教科教育法Ⅰ	2	秋	火2	安間 一雄	5-202	-	養・経・法のみ履修可	7
3-5		英語科教科教育法Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		英語科教科教育法Ⅲ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		フランス語科教科教育法Ⅰ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		フランス語科教科教育法Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		フランス語科教科教育法Ⅲ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		フランス語科教科教育法Ⅳ	2			2014年度不開講		-		-
2-3	06934	社会科教育法Ⅰ	2	春	月1	秋本 弘章	E-312	-		10
3-5		社会科教育法Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		社会科教育法Ⅲ	2			2014年度不開講		-		-

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	06939	地理・歴史科教育法Ⅰ	2	秋	土1	鈴木 孝	E-312	-		12
3-5		地理・歴史科教育法Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		地理・歴史科教育法Ⅲ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		公民科教育法Ⅰ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		公民科教育法Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		情報科教育法Ⅰ	2			2014年度不開講		-		-
3-5		情報科教育法Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
2-3	23626	道德教育の理論と実践	2	春	月3	安井 一郎	5-207	-	中学校1種免許状は必修	22
2-3	23624	道德教育の理論と実践	2	春	木2	安井 一郎	E-304	-	中学校1種免許状は必修	22
2-3	23625	道德教育の理論と実践	2	秋	木4	小島 優生	E-313	-	中学校1種免許状は必修	22
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川 良一	5-208	-		23
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原 憲一	E-101	-		23
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川 良一	5-208	-		23
2-3	06955	教育方法学	2	春	火1	安井 一郎	5-100	-		24
2-3	06956	教育方法学	2	春	金3	町田 喜義	E-308	-		24
2-3	06954	教育方法学	2	秋	金3	町田 喜義	E-308	-		24
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原 憲一	6-101	-		25
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川 良一	E-304	-		25
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川 良一	E-304	-		25
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	木2	瀧本 孝雄	5-100	-	養は自学科科目で履修	26
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	木2	瀧本 孝雄	5-100	-	養は自学科科目で履修	26
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木 乙史	E-312	-	養は自学科科目で履修	26
3-6		教育実習指導	2			2014年度不開講		-		-
4-7		教育実習Ⅰ	2			2014年度不開講		-		-
4-7		教育実習Ⅱ	2			2014年度不開講		-		-
4-8		教職実践演習(中・高)	2			2014年度不開講		-		-

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教科又は教職に関する科目≫

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	29
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	30
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	30
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	-	司書教諭課程登録者のみ履修可	31
2-3	07022	情報メディアの活用※	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	司書教諭課程登録者のみ履修可。情報免許取得希望者は教務課免許課程係で別途手続をすること。	32
2-3	07021	情報メディアの活用※	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	司書教諭課程登録者のみ履修可。情報免許取得希望者は教務課免許課程係で別途手続をすること。	32
2-3	22670	生涯学習概論	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	-	司書課程登録者のみ履修可	33
2-3	23626	道德教育の理論と実践	2	春	月3	安井 一郎	5-207	-	高校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	22
2-3	23624	道德教育の理論と実践	2	春	木2	安井 一郎	E-304	-	高校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	22
2-3	23625	道德教育の理論と実践	2	秋	木4	小島 優生	E-313	-	高校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	22
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金3	山口 友佑	5-201	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金4	山口 友佑	5-201	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	水2	山岸 倫子	6-203	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34
2-3	12780	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	水3	山岸 倫子	6-305	-	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」の必修科目として適用	34
3-5		教科教育法特論 I	2			2014年度不開講		-	環のみ履修可	-

※抽選結果を確認すること。

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

《教科に関する科目》

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説Ⅰ	2	春	月4	會田 康範	E-312	-		35
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田 康範	E-312	-		35
1-1	06984	外国史概説Ⅰ	2	秋	金5	兼田 信一郎	E-201	-		36
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金3	久慈 栄志	5-301	-		37
1-1	06986	地理学概説Ⅰ	2	春	火1	秋本 弘章	E-312	-		38
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本 弘章	E-312	-		38
1-1	06988	地誌学概説Ⅰ	2	春	水1	秋本 弘章	E-312	-		39
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本 弘章	E-312	-		39
2-3	07023	法律学概説Ⅰ	2	春	水2	大川 俊	E-206	-	経・法履修不可	40
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	水2	木藤 茂	E-206	-	経・法履修不可	40
2-3	07025	政治学概説Ⅰ	2	春	木1	杉田 孝夫	5-207	-	経・法履修不可	41
2-3	07026	政治学概説Ⅱ	2	秋	木1	杉田 孝夫	5-207	-	経・法履修不可	41
1-1	07027	社会学概説Ⅰ※	2	春	土1	岡村 圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	42
1-1	07028	社会学概説Ⅱ※	2	秋	土1	岡村 圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	42
2-3	07029	哲学概説Ⅰ	2	春	火5	河口 伸	6-303	-		43
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口 伸	6-303	-		43
1-1	07031	倫理学概説Ⅰ※	2	春	月4	川口 茂雄	E-205	300	養は自学科科目で履修	44
1-1	07032	倫理学概説Ⅱ※	2	秋	月4	川口 茂雄	A-207	300	養は自学科科目で履修	44
2-3	07033	宗教学概説Ⅰ	2	春	木5	河口 伸	6-303	-		45
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口 伸	6-303	-		45
1-1	07104	心理学概説Ⅰ※	2	春	木2	田口 雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	46
2-3	07105	心理学概説Ⅱ※	2	秋	木4	田口 雅徳	6-201	100	養は自学科科目で履修	46
1-1	22810	東洋史Ⅰ(教職)※	2	春	木3	熊谷 哲也	E-201	300	養履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	47
2-3	22812	東洋史Ⅰ(教職)※	2	春	木4	張 士陽	5-407	300		48
1-1	22811	東洋史Ⅱ(教職)※	2	秋	木3	熊谷 哲也	E-201	300	養履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	47
2-3	22813	東洋史Ⅱ(教職)※	2	秋	木4	張 士陽	5-407	300		48

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
1-1	22806	西洋史Ⅰ(教職)※	2	春	月1	上村 敏郎	5-128	300	養履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	49
1-1	22808	西洋史Ⅰ(教職)※	2	春	金3	佐藤 唯行	A-206	300		50
1-1	22807	西洋史Ⅱ(教職)※	2	秋	月1	上村 敏郎	5-128	300	養履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	49
1-1	22809	西洋史Ⅱ(教職)※	2	秋	金3	佐藤 唯行	A-206	300		50
1-1	22814	地理学Ⅰ(教職)※	2	春	水2	秋本 弘章	E-101	300	経履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	51
1-1	22816	地理学Ⅰ(教職)※	2	春	金4	北崎 幸之助	E-202	300	養・経履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	52
1-1	22815	地理学Ⅱ(教職)※	2	秋	水2	秋本 弘章	E-101	300	経履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	51
1-1	22817	地理学Ⅱ(教職)※	2	秋	金4	北崎 幸之助	E-202	300	養・経履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	52
1-1	22818	地誌学Ⅰ(教職)※	2	春	木3	飯嶋 曜子	A-206	200	独・養・経履修不可	53
1-1	22819	地誌学Ⅱ(教職)※	2	秋	木3	飯嶋 曜子	A-206	200	独・養・経履修不可	53
1-1	22820	国際法Ⅰ(教職)※	2	春	月1	一之瀬 高博	E-201	300	法履修不可	54
1-1	22821	国際法Ⅱ(教職)※	2	秋	月1	一之瀬 高博	E-201	300	法履修不可	54
1-1	22825	英語通訳(教職)※	2	春	土2	中島 直美	E-306	50	外履修不可	55
1-1	22826	英語通訳(教職)※	2	秋	土2	中島 直美	E-306	50	外履修不可	55
2-3	22827	英語圏の社会と思想a(教職)※	2	春	金3	田村 斉敏	E-202	100	外履修不可	56
2-3	22828	英語圏の社会と思想b(教職)※	2	秋	木4	片山 亜紀	E-205	100	外履修不可	56
1-1	22837	社会経済史a(教職)※	2	春	木4	新井 孝重	E-206	300	養・経履修不可	57
1-1	22838	社会経済史b(教職)※	2	秋	木4	新井 孝重	E-206	300	養・経履修不可	57
1-1	22839	社会思想史a(教職)※	2	春	火4	市川 達人	5-211	300	養・経履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	58
1-1	19979	社会思想史a(教職)※	2	春	水2	松丸 壽雄	A-206	300		59
1-1	22840	社会思想史b(教職)※	2	秋	火4	市川 達人	5-211	300	養・経履修不可 同一科目で別教員の授業 を履修希望者は、免許課 程係で別途手続。	58
1-1	19980	社会思想史b(教職)※	2	秋	水2	松丸 壽雄	A-206	300		59
2-3	22845	外国経済史a(教職)※	2	春	火1	御園生 眞	5-201	350	外・養・経・総履修不可	60
2-3	22846	外国経済史b(教職)※	2	秋	火1	御園生 眞	5-201	350	外・養・経・総履修不可	60
2-3		日本思想史a(教職)	2			2014年度不開講		－	養・経・律・国履修不可	－
2-3		日本思想史b(教職)	2			2014年度不開講		－	養・経・律・国履修不可	－
3-5		経済学史a(教職)	2			2014年度不開講		－	養・経・総履修不可	－
3-5		経済学史b(教職)	2			2014年度不開講		－	養・経・総履修不可	－

※抽選結果を確認すること。

2013～2014年度入学対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）の単位を修得しなければなりません。
所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法施行規則に定める科目	所属	科目群	科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	各学部共通科目	日本国憲法	2単位	下表の時間割から、いずれか1科目を登録すること。
	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。
体育	全学部	各学部共通科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業科目「スポーツ・レクリエーション」を参照の上、登録すること。
外国語コミュニケーション	全学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。
情報機器の操作	外国語学部 国際教養学部 経済学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。
	法学部	基礎科目	社会科学情報検索法	2単位×1	自学科時間割冊子を参照し、単位修得すること。 下表の時間割から、いずれか1科目を登録すること。
		各学部共通科目	コンピュータ入門a		
			コンピュータ入門b		

学年 -学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※1	備考	ページ
1-1	22822	日本国憲法(教職)	2	春	金3	古関 彰一	5-403	300	法履修不可	61
1-1	22823	日本国憲法(教職)	2	春	火2	加藤 一彦	A-206	300	法履修不可	62
1-1	22824	日本国憲法(教職)	2	秋	火2	加藤 一彦	A-206	300	法履修不可	62
1-1	06968	コンピュータ入門a(教職)	2	春	火3	久東 義典	E-407	49	外・養・経履修不可	63
1-1	06969	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	黄 海湘	E-403	49	外・養・経履修不可	63
1-1	06973	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	杉村 和枝	E-410	60	外・養・経履修不可	63
1-1	06971	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金4	黄 海湘	E-403	49	外・養・経履修不可	63
1-1	※2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	火3	久東 義典	E-407	49	外・養・経履修不可	63
1-1	※2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	黄 海湘	E-403	49	外・養・経履修不可	63
1-1	※2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	杉村 和枝	E-410	60	外・養・経履修不可	63
1-1	※2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金4	黄 海湘	E-403	49	外・養・経履修不可	63

※1 抽選結果を確認すること。

※2 秋学期履修希望者は、履修登録期間内に教務課法学部係にて別途手続（整理券必要）。

司書課程 授業科目(2011年度以前入学者)

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	06998	生涯学習概論_11以前	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	-		33
2-3	06999	図書館概論_11以前	2	春	木4	井上 靖代	A-306	-		64
2-3	07036	図書館経営論_11以前	2	秋	木4	井上 靖代	A-306	-		64
2-3	07035	図書館サービス論_11以前	2	春	木2	井上 靖代	A-406	-		65
3-5	08830	情報サービス論a_11以前	2	春	月3	福田 求	E-412	50	先着順	66
3-5	08747	情報サービス論a_11以前	2	春	月4	福田 求	E-412	50	先着順	66
3-5	08831	情報サービス論b_11以前	2	春	金3	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
3-5	08748	情報サービス論b_11以前	2	春	金2	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
3-5	07004	情報検索演習_11以前	2	秋	金2	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
3-5	07005	情報検索演習_11以前	2	秋	金3	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
2-3	07006	図書館資料論_11以前	2	春	木1	井上 靖代	A-405	-		68
2-3	07007	専門資料論_11以前	2	秋	木1	井上 靖代	A-405	-		68
3-5	07008	資料組織概説_11以前	2	春	月1	小黒 浩司	A-306	-		69
3-5	07009	資料組織演習(前半)_11以前	1	春	火4	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット履修 (前半・後半双方単位修得 すること)	70
3-5		資料組織演習(後半)_11以前	1	秋	月1	小黒 浩司	A-308			
3-5	14255	資料組織演習(前半)_11以前	1	春	火5	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット履修 (前半・後半双方単位修得 すること)	70
3-5		資料組織演習(後半)_11以前	1	秋	月2	小黒 浩司	A-308			
2-3	07011	児童サービス論_11以前	2	秋	木2	井上 靖代	A-406	-		71
2-3	07012	図書及び図書館史_11以前	2	春	月2	小黒 浩司	A-306	-		72
		資料特論	2			2014年度不開講				-
		コミュニケーション論	2			2014年度不開講				-
		情報機器論	2			2014年度不開講				-
3-5	07015	図書館特論_11以前	2	春	水2	井上 靖代	5-201	-		76

司書教諭課程 授業科目(2011年度以前入学者)

開始 学期	コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	-		29
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	-		30
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	-		30
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	-		31
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選※	32
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選※	32

※抽選科目は、必ず抽選結果を確認すること。

司書課程 授業科目(2012年度以降入学者)

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	22670	生涯学習概論_12以降	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	-		33
2-3	22671	図書館概論_12以降	2	春	木4	井上 靖代	A-306	-		64
3-5	22951	図書館情報技術論_12以降	2	秋	月3	福田 求	E-412	15	先着順	73
3-5	22952	図書館情報技術論_12以降	2	秋	月4	福田 求	E-412	15	先着順	73
3-5	22953	図書館情報技術論_12以降	2	秋	火2	堀江 郁美	E-414	15	先着順	74
2-3	22672	図書館制度・経営論_12以降	2	秋	木4	井上 靖代	A-306	-		64
2-3	22673	図書館サービス概論_12以降	2	春	木2	井上 靖代	A-406	-		65
3-5	22954	情報サービス論_12以降	2	春	月3	福田 求	E-412	50	先着順	66
3-5	22955	情報サービス論_12以降	2	春	月4	福田 求	E-412	50	先着順	66
2-4	22677	児童サービス論_12以降	2	秋	木2	井上 靖代	A-406	-		71
3-5	22956	情報サービス演習(前半)_12以降	1	春	金2	気谷 陽子	A-308	50	先着順、春・秋セット履修	67
3-5		情報サービス演習(後半)_12以降	1	秋	金2	気谷 陽子	A-308			
3-5	22958	情報サービス演習(前半)_12以降	1	春	金3	気谷 陽子	A-308	50	先着順、春・秋セット履修	67
3-5		情報サービス演習(後半)_12以降	1	秋	金3	気谷 陽子	A-308			
2-3	22674	図書館情報資源概論_12以降	2	春	木1	井上 靖代	A-405	-		68
3-5	22960	情報資源組織論_12以降	2	春	月1	小黒 浩司	A-306	-		69
3-5	22961	情報資源組織演習(前半)_12以降	1	春	火4	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット履修	70
3-5		情報資源組織演習(後半)_12以降	1	秋	月1	小黒 浩司	A-308			
3-5	22963	情報資源組織演習(前半)_12以降	1	春	火5	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット履修	70
3-5		情報資源組織演習(後半)_12以降	1	秋	月2	小黒 浩司	A-308			
		図書館基礎特論	2			2014年度不開講				
3-5	22676	図書館サービス特論_12以降	2	春	水2	井上 靖代	5-201	-		76
2-4	22679	図書館情報資源特論_12以降	2	秋	木1	井上 靖代	A-405	-		68
2-3	22678	図書・図書館史_12以降	2	春	月2	小黒 浩司	A-306	-		72
2-3	22965	図書館施設論_12以降	2	秋	水2	井上 靖代	5-101	-		75
		図書館実習	2			2014年度不開講				

司書教諭課程 授業科目(2012年度以降入学者)

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	-		29
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	-		30
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	-		30
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	-		31
2-3	07022	情報メディアの活用※	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	司書教諭課程登録者のみ履修可。情報免許取得希望者は教務課免許課程係で別途手続をすること。	32
2-3	07021	情報メディアの活用※	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	司書教諭課程登録者のみ履修可。情報免許取得希望者は教務課免許課程係で別途手続をすること。	32

※抽選科目は、必ず抽選結果を確認すること。

03 年度以降	教職論	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第1回：オリエンテーション 第2回：期待される教師像と目指す教師像 第3回：児童・生徒の成長と教員の役割 第4回：教員の資質と能力 第5回：教員養成と教員免許 第6回：教員の任用と教育委員会 第7回：教員の身分と服務 第8回：教員の職務(1) 学校と教員の一年・学校と教員の一日 第9回：教員の職務(2) 学校運営と校務分掌 第10回：教員の職務(3) 学習指導と生徒指導 第11回：教員の研修(1) 年次研修と教員のキャリア 第12回：教員の研修(2) 自主的研修（教育センター等における研修機会）の活用 第13回：様々な進路選択の問題を考える(1) 他の仕事と比較した教職の特質 第14回：様々な進路選択の問題を考える(2) 学校教育の体験—学校支援員等について— 第15回：まとめ 教職を目指す君たちが今なすべきこと	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】講義毎に配布する資料 【参考文献】講義内容に応じて適宜紹介		課題レポート、定期試験等により総合的に評価する。	

03 年度以降	教職論	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育原論	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。 【授業の概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。		第1回：講義の進め方の説明 第2回：教育の意義 第3回：人間形成と学習 第4回：教育の思想と歴史（その1）近代教育思想のめばえ 第5回：教育の思想と歴史（その2） 紳士の教育から人間の教育へ 第6回：教育の思想と歴史（その3）近代市民教育と国民教育 第7回：教育の思想と歴史（その4）日本の教育思想の歴史 第8回：教育の思想と歴史（その5） 戦後の教育思想と教育問題 第9回：教育の思想と歴史（その6） 21世紀の教育思想と教育課題 第10回：学力問題と国際比較 第11回：能力と指導を考えるー 習熟度別指導と発達の最近接領域説ー 第12回：教育における競争と自由の問題を考える 第13回：子どもの権利条約の精神 第14回：子どもに固有の権利と人権との関係 第15回：子どもとはどういう存在か （系統発達と子どもの発見）	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】『ポケット版 子どもの権利ノート』（300 円） 【参考文献】適宜紹介する。		期末試験に、感想文や小レポートの提出等を加味する。	

03 年度以降	教育原論	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前 13 年度以降	教職心理学 教育心理学（12 年度以前の交を含む。）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、今日の学校臨床における生徒理解あるいは生徒指導にいかにかかすことができるかを受講者とともに検討する。受講生には、こうした講義を通して教育現場にたつ人間に必要とされる心理学の基礎的知識について理解を深めてほしい。 【授業の概要】 教育心理学には大きく（１）測定・評価，（２）人格・適応，（３）発達，（４）学習という４つの領域がある。本授業では、これら４領域の内容を解説する。すなわち、１．教育評価と学力問題，２．学習の過程と学習への動機付け，３．発達および発達障害について講義していく予定である。		第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達期と発達課題 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：ADHD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：発達障害への心理支援	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】必要な資料を配付する。 【参考文献】授業にて適宜紹介する。		学期末の試験により、総合的に評価をおこなう	

12 年度以前 13 年度以降	教職心理学 教育心理学（12 年度以前の交を含む。）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育制度	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第1回：オリエンテーション 第2回：教育の制度化 第3回：学校教育制度の概要 第4回：学校教育制度の変遷 第5回：公教育と私教育 第6回：教育行財政 第7回：教育委員会制度 第8回：教育課程と学習指導要領 第9回：諸外国の教育制度 第10回：家庭教育の現状と課題 第11回：社会教育の現状と課題 第12回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第13回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第14回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第15回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 講義毎に配布する資料 【参考文献】 講義内容に応じて適宜紹介		課題レポート、定期試験により総合的に評価する。	

03 年度以降	教育制度	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育課程論	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育課程の編成と評価 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。 【授業の概要】 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。		第1回：教育課程と学力問題 第2回：教育課程とは何か 第3回：日本の教育課程(1)教育課程編成のプロセス 第4回：日本の教育課程(2)学習指導要領と教育課程 第5回：教育課程編成の理論と方法(1)経験カリキュラム 第6回：教育課程編成の理論と方法(2)教科カリキュラム 第7回：教育課程編成の理論と方法(3)教育課程構成法 第8回：学習指導要領と教育課程(1)昭和 20 年代 第9回：学習指導要領と教育課程(2)昭和 30-40 年代 第10回：学習指導要領と教育課程(3)昭和 50-60 年代 第11回：学習指導要領と教育課程(4)平成 1-10 年代 第12回：新学習指導要領の検討 (1)改訂の経緯と概要 第13回：新学習指導要領の検討 (2)実践課題 第14回：教育課程と評価 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 特になし 【参考文献】 文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。その他は、講義の中で紹介する。		授業課題、試験による総合評価	

03 年度以降	教育課程論	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標とする。 【授業の概要】 基礎知識に関しては、学科基礎科目において習得してきた文法に関する知識のみならず、ドイツ語の授業を行うのに必要だと思われるドイツ語に関わる一般的知識をも含めて確認・補強をする。外国語教授法に関しては、代表的な教授法に関して受講者に調査・報告をしてもらい、その長所・短所を議論する。また教案や試験問題なども実際に作成してみたい。		第1回：オリエンテーション 第2回：ドイツ語基礎知識確認試験 第3回：試験の解答と解説による基礎知識の確認1（文法事項中心） 第4回：試験の解答と解説による基礎知識の確認2（書き換え問題中心） 第5回：試験の解答と解説による基礎知識の確認3（独作文中心） 第6回：教壇実習の割り振りについて（基礎知識の一番弱い項目を中心に） 第7回：代表的な外国語教授法について1（発表形式） 第8回：代表的な外国語教授法について2（発表形式） 第9回：教授法についてのディスカッション 第10回：教壇実習（アルファベットと発音を中心に） 第11回：教壇実習（動詞の人称変化を中心に） 第12回：教壇実習（格変化を中心に） 第13回：教壇実習（人称代名詞の格変化を中心に） 第14回：教壇実習（前置詞を中心に） 第15回：総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】適宜指示する。 【参考文献】吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年		1. ドイツ語文法と教授法の基礎知識に関しては、授業内の筆記試験。 2. 教授法に関する発表。 3. 授業への参加度。	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標とする。 【授業の概要】 ドイツ語科教育法Ⅱにおいては、複数回の模擬授業を通じて、ドイツ語を教えるという経験の獲得を目指したい。模擬授業の際には担当者の授業をビデオ撮影し、担当者自らが自分の授業を振り返り、さらに参加者全員で講評し合うことができるようにする。		第1回：オリエンテーション 第2回：ドイツ語基礎知識確認試験 第3回：教壇実習の割り振りについて（基礎知識の一番弱い項目を中心に） 第4回：教壇実習（動詞の人称変化を中心に） 第5回：教壇実習（格変化を中心に） 第6回：教壇実習（3 基本形を中心に） 第7回：教壇実習（受動態を中心に） 第8回：教壇実習（接続法を中心に） 第9回：教壇総括（ビデオを使つての反省会） 第10回：教壇実習（コミュニケーションあるいは読解中心） 第11回：教壇実習（コミュニケーションあるいは読解中心） 第12回：教壇実習（コミュニケーションあるいは読解中心） 第13回：教壇実習（コミュニケーションあるいは読解中心） 第14回：教壇実習（コミュニケーションあるいは読解中心） 第15回：総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】適宜指示する。 【参考文献】吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年		1. ドイツ語文法と教授法の基礎知識に関しては、授業内の筆記試験。 2. 教授法に関する発表。 3. 授業への参加度。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 I（英語） 英語科教科教育法 I（12 年度以前の交・養を含む。）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 この授業は中学・高校の英語教員を目指す学生が知っておくべき教科指導及び言語学習・習得に関する基礎的理論とその背景を幅広く取り上げ、それらを理解することを目的とする。 【授業の概要】 この授業では様々な外国語教授法、日本における英語教育の歴史的変遷と課題を理解し、先達が築いてきた理論や研究も参考にしつつ、現代により合致した教育方法への応用を検討する。また最新の教授理論の背景とその効果に関わる研究についても議論する。		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：日本における英語教育の流れ 第 3 回：学習指導要領の変遷 第 4 回：英語教育に関する諸理論：母語習得 第 5 回：英語教育に関する諸理論：第二言語習得 第 6 回：英語教育に関する諸理論：学習者要因 第 7 回：英語教育に関する諸理論： 学習者言語とフィードバック 第 8 回：各種指導法の理論 第 9 回：各種指導法の応用 第 10 回：テストに関する理論と実践 第 11 回：ティームティーチングの理論と実践 第 12 回：教案の書き方と創意工夫 第 13 回：海外における英語教育 第 14 回：英語教員の資質向上 第 15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】各担当教員が指示する。 【参考書・参考資料等】授業中に指示する。		課題・レポート、テスト、授業への参加度などを総合的に評価する。詳細は授業初回に指示する。	

03～12 年度 07～12 年度	英語科教科教育法Ⅰ（英のみ） 英語科教科教育法Ⅱ（交・養のみ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 この授業では中学校・高等学校における英語科教育法に関する基礎知識を身につけ、指導法を学び、実践することを目的とする。 【授業の概要】 この授業では中学校を中心とした英語指導法についての知識を深めるとともに、授業観察、指導案の作成、模擬授業の実践、講評などによって授業実践力の基礎を身につける。 ※英語学科生はⅠとⅡ、交流文化学科生はⅡとⅢを原則として同じ担当者の授業を受講すること。		第1回：オリエンテーション 第2回：発音の指導 第3回：語彙・辞書の指導 第4回：文法の指導 第5回：受容スキル（リスニング・リーディング）の指導 第6回：産出スキル（スピーキング・ライティング）の指導 第7回：学習者参加型の授業 第8回：授業展開と指導案作成 第9回：テスト作成と評価 第10回：授業の実際：ビデオによる観察と討論 第11回：模擬授業 グループ1 第12回：模擬授業 グループ2 第13回：模擬授業 グループ3 第14回：模擬授業 グループ4 第15回：模擬授業 グループ5	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】各担当教員が指示する。 【参考書・参考資料等】授業中に指示する。		課題・レポート、テスト、模擬授業、授業への参加度などを総合的に評価する。詳細は授業初回に指示する。	

03～12 年度 07～12 年度	英語科教科教育法Ⅱ（英のみ） 英語科教科教育法Ⅲ（交・養のみ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 この授業では中学校・高等学校における英語科教育法に関する知識を身につけ、指導法を学び、実践することを目的とする。 【授業の概要】 この授業では高等学校を中心とした英語指導法についての知識を深めるとともに、授業観察、指導案の作成、模擬授業の実践、講評などによって授業実践力の基礎を身につける。 ※英語学科生はⅠとⅡ、交流文化学科生はⅡとⅢを原則として同じ担当者の授業を受講すること。		第1回：オリエンテーション 第2回：英語で行う授業と教室英語 第3回：ワークショップ：導入および授業手続き 第4回：インプットを中心とした指導 第5回：ワークショップ：インプットを重視した指導 第6回：アウトプットを中心とした指導 第7回：ワークショップ：アウトプットを重視した授業 第8回：リキャストとスキャフォールディング 第9回：ワークショップ：内容重視型授業 第10回：ワークショップ：タスクを中心とした授業 第11回：ワークショップ：4技能の統合 第12回：自律学習のための課題設定 第13回：授業の総括および家庭学習 第14回：授業の実際：ビデオによる観察と討論 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】各担当教員が指示する。 【参考書・参考資料等】授業中に指示する。		課題・レポート、テスト、模擬授業、授業への参加度などを総合的に評価する。詳細は授業初回に指示する。	

03 年度以降	フランス語科教科教育法 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 言語教育に携わっていく上で必要な言語教育理論や実践方法についての基礎知識を学び、教育実習に必要な事柄の習得を目指す。また、日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と今後の在り方について考える。 【授業の概要】 フランス語教育の歴史的変遷や教材分析、教案の書き方、教室活動、評価の仕方などを紹介する。教材分析や教案の作成など、グループまたは個人による課題に取り組む。必ず一回目から出席すること。		第 1 回：Introduction 第 2 回：コースデザイン、カリキュラムデザイン、シラバスデザイン 第 3 回：教案の書き方（個人での教案作成作業） 第 4 回：言語教育の方法の変遷 - 古代から現代まで - 第 5 回：フランス語教授法の変遷 - 文法訳読法から SGAV（視聴覚方式全体構造教授法）へ - 第 6 回：フランス語教授法の変遷 - SGAV の反省から コミュニカティブ・アプローチへ - 第 7 回：日本におけるフランス語教育の変遷 第 8 回：日本で作成されたフランス語教材の種類と分析 第 9 回：フランスで作成されたフランス語の総合教材（méthodes）種類と分析 第 10 回：教材分析作業と発表（グループ作業） 第 11 回：教室活動 - アクティビティを取り入れた授業 -（グループ作業） 第 12 回：教師の役割りと教室空間の使い方 第 13 回：教室活動 - タスクを取り入れた授業 -（グループ作業） 第 14 回：評価について 第 15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著：『フランス語をどのように教えるか』，駿河台出版社，1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.		授業中の講義ノート、グループによる作業と発表（教材分析、アクティビティ、タスク）、教案作成、教材分析のための枠組みの作成、レポート課題	

03 年度以降	フランス語科教科教育法 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語科教科教育法 I で学習した内容を踏まえ、授業を行う時の注意点や問題点などについて考えると共に、実際に教壇に立つための訓練を行う。また模擬授業を通して教育実習への心構えができるようにする。 【授業の概要】 毎回、模擬授業を実施し、学生一人あたり数 4～5 回の模擬授業を担当する。一回の模擬授業につき次のような流れで進める：教案作成 → 授業準備 → 模擬授業実施 → 評価と反省 → 次回への自分への課題を決める → 個別に事後指導。必ず一回目から出席すること。		第 1 回：Introduction 第 2 回：模擬授業 1 第 3 回：模擬授業 2 第 4 回：模擬授業 3 第 5 回：模擬授業 4 第 6 回：模擬授業 5 第 7 回：模擬授業 6 第 8 回：模擬授業 7 第 9 回：模擬授業 8 第 10 回：模擬授業 9 第 11 回：模擬授業 10 第 12 回：模擬授業 11 第 13 回：模擬授業 12 第 14 回：模擬授業 13 第 15 回：まとめ - 教育実習に向けて -	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著：『フランス語をどのように教えるか』，駿河台出版社，1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.		授業中の講義ノート、グループによる作業と発表（教材分析、アクティビティ、タスク）、教案作成、教材分析のための枠組みの作成、レポート課題	

03 年度以降	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法 I は主として、社会科の理念、内容、課題について考察する。 【授業の概要】 社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。		第 1 回：社会科教員の 1 日 第 2 回：社会科成立の背景と意義 第 3 回：社会科の教育課程とその変化（1） 初期社会科 第 4 回：社会科の教育課程とその変化（2） 分野制社会科の成立と展開 第 5 回：社会科の教育課程とその変化（3） 知識から方法へ 第 6 回：社会科の教育内容（1）地理的分野（1） 目標と内容 第 7 回：社会科の教育内容（2）地理的分野（2） 授業の展開 第 8 回：社会科の教育内容（3）歴史的分野（1） 目標と内容 第 9 回：社会科の教育内容（4）歴史的分野（2） 授業の展開 第 10 回：社会科の教育内容（5）公民的分野（1） 目標と内容 第 11 回：社会科の教育内容（6）公民的分野（2） 授業の展開 第 12 回：社会科の今日的課題（1）環境 第 13 回：社会科の今日的課題（2）人権 第 14 回：社会科の今日的課題（3）国際化 第 15 回：社会科の今日的課題（4）情報化	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 文部省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版 【参考文献】 授業中に指示される。		授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱは主として、社会科の授業実践のための技能を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 社会科教育法Ⅱでは社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。		第1回：社会科の目標と身につけるべき力 第2回：学習と評価 第3回：講義式授業の特質 第4回：教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍 第5回：教材の収集と利用（2）視聴覚教材 第6回：教材の収集と利用（3）インターネット等 第7回：教材の収集と活用（4）ワークシートの作成 第8回：生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導 第9回：生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表 第10回：シミュレーション教材の利用 第11回：臨地学習の意義と計画 第12回：臨地学習の実践 第13回：臨地学習の実践 第14回：学習指導計画と学習指導案(1) 年間計画・学期計画・単元計画 第15回：学習指導計画と学習指導案(2) 時間計画	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。		授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。	

03 年度以降	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅲは主として、社会科の模擬授業を通じて実践力を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。		第1回：学校カリキュラムの中の社会科 第2回：社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 第3回：学習指導案の作成と模擬授業の準備 資料の収集 第4回：学習指導案の作成と模擬授業の準備 教材構成と発問の工夫 第5回：学習指導案の作成と模擬授業の準備 プリント資料の作成と板書事項の検討 第6回：模擬授業（1）地理的分野 日本の諸地域 第7回：模擬授業（2）地理的分野 世界の諸地域 第8回：模擬授業（3）歴史的分野 近代以前の世界 第9回：模擬授業（4）歴史的分野 近代以降の日本 第10回：模擬授業（5）公民的分野 経済分野 第11回：模擬授業（6）公民的分野 政治分野 第12回：模擬授業（7）分野融合単元 現代社会の諸問題 第13回：評価問題の検討と学習評価 定期試験問題の作成 第14回：評価問題の検討と学習評価 定期試験結果の分析と授業の改善 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。		授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理・歴史科教育法 I	担当者	鈴木 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 歴史認識と歴史教育の関連について考察し、さらに世界史教育のための理念を獲得する。 また、世界史A・世界史Bの授業実践のための留意点や手法、教材研究の工夫など、授業担当者としてのスキルアップをはかる。 【授業の概要】 授業は講義方式で行うが、毎回パワーポイントを用いて事例を提示する。15回の授業のなかで何度か演習（小テストを含む）を行い、まとめとしてレポート（小論文）を課す。		第1回：歴史認識…その所在と変遷… 第2回：歴史教育における世界史必修化の意義 第3回：学習指導要領による世界史教育 第4回：教材研究…その精神と方法… 第5回：世界史 A の授業研究…世界史 A の概要と特色 第6回：世界史 A の授業①…諸地域世界の特徴… 第7回：世界史 A の授業②…ネットワーク論による交流… 第8回：世界史 A の授業③…近現代の世界と主題学習… 第9回：世界史 A の授業実践例（映像）と問題点の検討 第10回：世界史 B の授業研究…世界史 B の概要と特色 第11回：世界史 B の授業①…時間軸と空間軸… 第12回：世界史 B の授業②…歴史資料の読み解き… 第13回：世界史 B の授業実践例と問題点の検討 第14回：授業を工夫する①…学習者の興味・関心を高める導入の検討… 第15回：授業を工夫する②…新しい手法を用いた授業構成例…	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』 【参考文献】授業のなかで必要に応じて紹介する。		授業中の演習（ワークシート）や最終レポート、定期試験等によって総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。 【授業の概要】 本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。		第1回：地理教育の意義と目標 第2回：日本の地理教育の歩み 第3回：諸外国の地理教育 第4回：学習指導要領をよむ 第5回：地理的見方・考え方について 第6回：地図・地球儀の扱い方（1） 地球儀と地図 第7回：地図・地球儀の扱い方（2） 世界地図の特徴と活用 第8回：野外観察・調査の意義と計画 第9回：野外観察の実践 第10回：系統地理の学習指導（1） 自然地理 第11回：系統地理の学習指導（2） 人文地理 第12回：地誌の学習指導（1） 地域区分とスケール 第13回：地誌の学習指導（2） 静態地誌・動態地誌 第14回：主題的学習の学習指導（1） 環境問題、資源エネルギー問題 第15回：主題的学習の学習指導（2） 人口問題、都市・居住問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』 【参考文献】授業時に示される		授業時に示される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。	

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅲ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 歴史研究と歴史教育の歴史的関係や今日的な課題を踏まえ、教職を志す学生自身がこれからの歴史教育の在り方を主体的に考え、それに基づき、独自に実践的な授業づくりを体験的に学習する。 【授業の概要】 歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を考察し討論することを通じて、教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらいたい。		第1回：歴史を学ぶこと・教えること① —歴史教育の目的・内容・方法・教材のあり方— 第2回：歴史を学ぶこと・教えること② —系統的通史学習と問題解決学習の特徴・課題— 第3回：歴史研究と歴史教育①—近代の歴史研究と歴史教育の関係— 第4回：歴史研究と歴史教育②—現代の歴史研究と歴史教育— 第5回：学習指導要領と教科書叙述① —学習指導要領の変遷・特色と画期— 第6回：学習指導要領と教科書叙述② —教科書制度の歴史と歴史教科書の特徴— 第7回：授業実践事例研究① —討論学習を取り入れた授業実践の事例研究— 第8回：授業実践事例研究② —講義形式による系統的通史学習の授業実践事例研究— 第9回：授業実践事例研究③ —効果的な単元構成と内容の精選の授業実践事例研究— 第10回：授業実践事例研究④ —「博学連携」による歴史学習の授業実践事例研究— 第11回：授業実践事例研究⑤ —視聴覚教材を活用した授業実践事例研究— 第12回：学習指導案の作成① —単元構成と授業展開について— 第13回：学習指導案の作成② —板書計画と補助資料の作成について— 第14回：学習指導案の作成③ —評価の観点とまとめについて— 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】特定のテキストは使用せず、資料プリントを必要に応じて配布する。高等学校の学習指導要領と地理・歴史科の指導書は各自が用意すること。 【参考文献】中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領		プレゼンテーション、レポート、定期試験などを総合的に評価する。 状況に応じて簡単な小レポートを課すこともある。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	公民科教育法Ⅰ	担当者	海野 省治
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 社会科教育・公民科教育の歴史を踏まえ、中学校社会科公民分野及び高等学校公民科及び各科目について、学習指導要領に基づき理解を深めるとともに、実践的な年間指導計画作成や教材研究、指導方法の工夫に向けた基礎的な理解を深める。 【授業の概要】 前半は講義中心。後半は公民分野、公民科各科目の学習指導事例について検討を加え、更に模擬授業を行って、具体的なテーマに沿った展開例、指導方法の工夫のあり方について実践的に検討する。		第1回：ガイダンス・心構え等 第2回：公民科・社会科について 第3回：社会科・公民科教育の戦後の流れ 第4回：学習指導要領に見る中学校公民科の目標と内容 第5回：学習指導要領に見る高等学校公民科の目標と内容 第6回：教材研究の方法（その1）教材の収集 第7回：教材研究の方法（その2）教材の加工 第8回：指導方法の工夫 指導計画・指導案の作成（その1）年間計画・単元計画 第9回：指導方法の工夫 指導計画・指導案の作成（その2）時間計画 第10回：中学「公民」学習指導事例研究 第11回：高校「政治・経済」学習指導事例研究 第12回：高校「倫理」学習指導事例研究 第13回：模擬授業（中学「公民」） 第14回：模擬授業（高等学校「政治・経済」、「倫理」） 第15回：講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】『高等学校学習指導要領解説』（中学校社会・高等学校公民） 【参考文献】特になし		レポートなどの提出物、定期試験等で総合的に評価する。	

03 年度以降	公民科教育法Ⅱ	担当者	海野 省治
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校公民分野及び高等学校公民科各科目の基本的な指導法について模擬授業を通して学ぶ。特に、分野・各科目の目標を踏まえ、その目標達成のための指導計画の作成の仕方、教材研究、指導法の工夫などを実践的に学び、更に評価のあり方についても理解を深める。 【授業の概要】 前半は講義中心。後半は公民分野、公民科各科目の学習指導事例について検討を加え、更に模擬授業を行って、具体的なテーマに沿った展開例、指導方法の工夫のあり方について実践的に検討する。		第1回：ガイダンス 第2回：公民科教員としての教養 第3回：学習指導要領の確認 第4回：年間指導計画の作成 第5回：教材研究の仕方 第6回：指導方法の工夫 第7回：指導案の作成 第8回：模擬授業 ①現代社会 第9回：模擬授業 ②倫理 第10回：模擬授業 ③倫理 第11回：模擬授業 ④政治経済（政治分野） 第12回：模擬授業 ⑤政治経済（経済分野） 第13回：模擬授業の総括 第14回：評価方法について 第15回：講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】『高等学校学習指導要領解説』（中学校社会・高等学校公民科） 【参考文献】特になし		レポートなどの提出物、定期試験等で総合的に評価する。	

03 年度以降	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。		1 オリエンテーション 2 情報科成立の背景と意義 3 普通教科「情報」の目的 4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5 専門教科「情報」の目的 6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7 学校における情報教育の環境 8 情報科教材研究（１）普通教科「情報」 9 情報科教材研究（２）普通教科「情報」 10 情報科教材研究（３）普通教科「情報」 11 情報科教材研究（４）普通教科「情報」 12 情報科教材研究（５）普通教科「情報」 13 情報科教材研究（５）専門教科「情報」 14 情報科教材研究（６）専門教科「情報」 15 情報科教材研究（７）専門教科「情報」	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。 なお、先進校授業参観については、参観先の都合等により日時をかえて行なう場合がある。		1 普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3 「情報」学習指導の実際（授業見学） 4 「情報」学習指導の実際（授業見学） 5 「情報」学習指導の実際（授業見学） 6 学習指導案の作成 7 学習指導案の作成 8 学習指導案の作成 9 模擬授業（１） 10 模擬授業（２） 11 模擬授業（３） 12 模擬授業（４） 13 模擬授業（５） 14 模擬授業（６） 15 情報教育のこれから	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

12 年度以前	教科教育法特論Ⅰ（ドイツ語）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 とりわけ翻訳に焦点を当て、単なる訳読と翻訳の相違を意識しながら、実践的な翻訳演習を行うとともに、それが外国語教育にどう生かせるかを考える。		第1回： 翻訳するとはどういうことか、それが外国語学習にどう生かせるかを考える 第2回： 日本に関するテーマに基づく実践的演習（1）（社会） 第3回： 日本に関するテーマに基づく実践的演習（2）（歴史） 第4回： 日本に関するテーマに基づく実践的演習（3）（文化） 第5回： ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（1）（社会） 第6回： ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（2）（歴史） 第7回： ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（3）（文化） 第8回： ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（4）（ヨーロッパの中のドイツ） 第9回： 国際的なテーマに基づく実践的演習（1）（社会） 第10回： 国際的なテーマに基づく実践的演習（2）（歴史） 第11回： 国際的なテーマに基づく実践的演習（3）（文化） 第12回： 国際的なテーマに基づく実践的演習（4）（日独交流） 第13回： アクチュアルなテーマに基づく実践的演習（1）（環境・エネルギー問題） 第14回： アクチュアルなテーマに基づく実践的演習（2）（移民・多文化共生） 第15回： まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 特になし（毎回、プリントを配布） 【参考文献】 特になし		授業中の作業や発表、および毎回提出してもらう課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。	

12 年度以前	教科教育法特論Ⅱ（ドイツ語）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 ドイツ語を学ぶことの意味や目的、実際の教育／学習方法について、単に理論や方法論を知るだけでなく、演習に参加する学生の外国語学習のプロセスを振り返ったり、それに関する意見交換をしながら、演習形式で学ぶ。 また、具体的な練習、たとえば翻訳者や通訳者がプロになるための過程で行う練習法などを、実際に教室で行って見て、それぞれの練習法がどのようにドイツ語教育に役立つかを体験してもらう。		第1回： 導入 第2回： これまで経験してきた外国語の学び方 第3回： 外国語教育に求められるものと目標設定 第4回： ドイツ語の「特殊性」（その歴史的な回顧と現状） 第5回： ドイツ語の学習法（主たる学習法のタイプ） 第6回： 聞き取りの練習（1）（シャドウイングによるアプローチ） 第7回： 聞き取りの練習（2）（その他の練習法） 第8回： テキストの展開に関する実際練習（1）（アンティシペーションの役割） 第9回： テキストの展開に関する実際練習（2）（各種の練習法の紹介） 第10回： テキストの展開に関する実際練習（3）（各練習法の実際練習） 第11回： テキストの展開に関する実際練習（4）（各種練習法の評価） 第12回： その他の実際練習（1）（背景知識としての社会的テーマ） 第13回： その他の実際練習（2）（背景知識としての歴史的テーマ） 第14回： その他の実際練習（3）（背景知識としての世界的テーマ） 第15回： まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 特になし（毎回、プリントを配布） 【参考文献】 特になし		授業中の作業や発表、および毎回提出してもらう課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。	

12 年度以前	教科教育法特論Ⅰ（フランス語）	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 学習ストラテジーの基本的な考え方と、「聞く」能力を身につけるための学習活動（アクティビティ）を組み立てる方法を学び、グループ作業を通して実践していく。		第1回：Introduction 第2回：外国語学習とは何か — 「学ぶ立場」から — 第3回：外国語教育とは何か — 「教える立場」から — 第4回：外国語学習における「良い学習者」 第5回：学習ストラテジーの定義について 第6回：学習ストラテジーの分類と学習活動（グループ作業） 第7回：「聞く」ための指導 第8回：発音の指導 第9回：リズム・イントネーション・発音の学習のための教材 第10回：音声教材の使い方と指導法 第11回：さまざまなタイプの聴解練習問題の分析 第12回：聴解練習問題の組み立て方 第13回：聴解練習を取り入れたアクティビティ作成（グループ作業） 第14回：「聞く」活動のグループ発表 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著：『フランス語をどのように教えるか』、駿河台出版社、1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.		定期試験、授業中のグループ作業、グループ発表、課題、授業への取り組みなどを総合的に評価する。	

12 年度以前	教科教育法特論Ⅱ（フランス語）	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 「聞く」能力養成を踏まえて、「話す」「読む」「書く」上でのコミュニケーション能力養成を目指した学習活動（アクティビティ）の組み立て方と指導法を学び、グループ作業を通して実践する。		第1回：Introduction 第2回：「話す」活動の指導法 第3回：Documents authentiques（教材用に作成されたものではないもの）を教材にする授業 第4回：「話す」学習活動の題材選びと準備、および組み立て方 第5回：「話す」活動を取り入れたアクティビティ作成（グループ作業） 第6回：「話す」活動のグループ発表 第7回：「読む、書く」活動の指導法 第8回：学習者のレベルにあった教材選び 第9回：文法と読解の授業について 第10回：母語と学習言語の扱いについて 第11回：Documents authentiques を「読み物」とする授業 第12回：「読む、書く」練習の組み立て方 第13回：「読む、書く」活動を取り入れたアクティビティ作成（グループ作業） 第14回：「読む、書く」活動のグループ発表 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著：『フランス語をどのように教えるか』、駿河台出版社、1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.		定期試験、授業中のグループ作業、グループ発表、課題、授業への取り組みなどを総合的に評価する。	

03 年度以降	教科教育法特論 I（社会）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 ・教科横断的学習の指導 本講は、中学校における各教科の指導法に関する学習をさらに発展させるために、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。 【授業の概要】 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。そのうえで、今日の教科教育の重要な課題である、各教科の関連づけを図った教科横断的な学習指導についての理解を深めるために、いくつかのグループに分かれ、総合的学習との関連を図った教科学習（クロス・カリキュラム）の学習指導案を作成する。		第 1 回：中学校の教育課程・確かな学力とは何か 第 2 回：クロス・カリキュラムとは何か 第 3 回：単元のテーマ、テーマ設定の理由、目標を考える 第 4 回：単元の内容構成を考える：導入 第 5 回：単元の内容構成を考える：展開前半の内容 第 6 回：単元の内容構成を考える：展開中盤の内容 第 7 回：単元の内容構成を考える：展開後半の内容 第 8 回：単元の内容構成を考える：まとめ、評価基準 第 9 回：学習指導案の作成：導入の指導計画 第 10 回：学習指導案の作成：展開前半の指導計画 第 11 回：学習指導案の作成：展開中盤の指導計画 第 12 回：学習指導案の作成：展開後半の指導計画 第 13 回：学習指導案の作成：まとめの指導計画、評価表 第 14 回：作成した学習指導案の発表準備 第 15 回：作成した学習指導案の発表・検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】特になし 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。その他は、講義の中で紹介する。		グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教科教育法特論Ⅱ（英語）	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, we will be taking a different approach to teaching. Rather than simply study in dry textbooks about classroom teaching methods and techniques, we will be reading a book written by a teacher for teachers, a book detailing the teacher's teaching beliefs and experiences on teaching, teachers, and students. In addition, we will observe, through the use of video, three inspirational films detailing the teaching experiences of three teachers, their attitudes towards students and teaching, and the techniques they employed in the classroom to improve the learning of their students. By linking these two learning resources, it is hoped that the students in this class will gain a clearer and better understanding of what it means to be a teacher, of teaching, and of students.		Week 1: Course introduction, pre-reading activities. Week 2: Reading activities, pre-viewing activities. Week 3: Video Ia, assignment. Week 4: Video Ib, assignment. Week 5: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 6: Reading activities, pre-viewing activities. Week 7: Video IIa, assignment. Week 8: Video IIb, assignment. Week 9: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 10: Reading activities, pre-viewing activities. Week 11: Video IIIa, assignment. Week 12: Video IIIb, assignment. Week 13: Post-viewing activities. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades are based on assignments & in-class participation (50%), and a final assessment (50%).	

12 年度以前	教科教育法特論Ⅱ（英語）	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教科教育法特論Ⅱ（英語）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 英語科指導に関わる教材開発と教材評価の実践的な運用力向上を目標とする。		1. 外国語教育のシラバスと教材：概要 2. 外国語教育のシラバスと教材：文法訳読法及び構造主義的教授法 3. 外国語教育のシラバスと教材：コミュニケーション教授法 4. 外国語教育のシラバスと教材：内容重視型教授法 5. オーセンティックな教材の意義 6. 素材の加工・編集：テキスト 7. 素材の加工・編集：音声（1）スクリプト作成 8. 素材の加工・編集：音声（2）学習要点作成 9. 素材の加工・編集：音声（3）音声収録 10. 素材の加工・編集：音声（3）音声編集 11. 課題の構成（1）統合・リンク 12. 課題の構成（2）全般的調整 13. 自主学習課題 14. ポートフォリオ設計 15. まとめ	
授業概要 教育現場での教材使用能力を高めるための方法論を学習し、かつ独自の教材作成・開発のための技能訓練を行う。 授業では実際の指導場面を想定し、ペアもしくはグループによる共同学習活動を行う。			
参考文献 授業時に指示する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布する。 参考文献：B. Thomlinson, <i>Developing Materials for Language Teaching</i> (Continuum, 2003; ISBN 9780826459176)		小テストおよび授業時の課題	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～12 年度 13 年度以降	道徳教育の研究 道徳教育の理論と実践	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 道徳教育の理念・日本における道徳教育の変遷に関して理解する。また、道徳教育の方法について、さまざまな手法を理解し、テーマ、学級の実態に応じた適切な手法を選択することができる。 2. 学習指導要領等にとり、指定された副読本教材をもとに学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。 3. 学習指導要領にとり、指定されたテーマに基づいた適切な教材を選択し、指導案を作成することができる。 【授業の概要】 主に①道徳教育に関する理論編、②指導案作成、③模擬授業の3段階に分かれる。①では、主に講義中心とし、②はあらかじめ指定された教材をもとに、指導を受けつつ実際に指導案を作成し、グループでの討論を通じて改善を行う。③では②で作成した指導案をもとに数人が実際に模擬授業を実施し、その後の討論を通じて課題の析出を行う。また、最終レポートで指定されたテーマ「生命の尊重」に基づいた（副読本以外の）教材を選定し、それに基づいた指導案作成を行う。		第1回：講義の進め方・評価・使用テキスト等に関するガイダンス 第2回：道徳教育を振り返って——道徳不振と道徳重視 第3回：道徳教育の歴史（1）戦前の「修身口授」から「修身」まで 第4回：道徳教育の歴史（2）生活主義道徳と特設主義道徳 第5回：道徳教育の歴史（3）道徳教育重視と現状 第6回：道徳教育の理論（1）道徳とは何か 第7回：道徳教育の理論（2）道徳は教えられるか——手法・教材・テーマ選択 第8回：理論編のまとめと小テスト 第9回：指導案を作成する（1）指導案作成の手順 第10回：指導案を作成する（2）生徒の現状とテーマ選択 第11回：指導案を検討する——テーマ・手法は適切か、時間配分など 第12回：模擬授業とその検討（1）グループ1、2 第13回：模擬授業とその検討（2）グループ3、4 第14回：模擬授業とその検討（3）グループ5、6 第15回：実践編のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】指定しない。 【参考文献】学習指導要領「道徳」、心のノート、副読本		小テスト（30点満点）、指定教材による指導案（30点満点）、指定テーマによる指導案（30点満点）と、発言、コメントシートなどの授業への貢献・積極性（10点程度）を加味して総合的に評価する。	

03～12 年度 13 年度以降	道徳教育の研究 道徳教育の理論と実践	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

03～12 年度 13 年度以降	特別活動 特別活動論（12 年度以前の総政及び交文を含む。）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、特別活動に関する基本的・基礎的な知識と特別活動の在り方や動向に関する知識を修得し、特別活動の特質や本質を踏まえた実践的指導力を育成することを目的とする。 【授業の概要】 特別活動の教育的意義や教育課程上の位置付け、目標と内容、指導計画の作成、指導方法などについて、講義と演習、模擬授業などを通して、現場実践に基づいて学ぶ。		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：特別活動と教育課程 第 3 回：特別活動の内容と変遷 第 4 回：特別活動の意義と目標 第 5 回：特別活動と諸教育指導 第 6 回：生徒会活動の目標と内容 第 7 回：生徒会活動の指導計画 第 8 回：学級活動の目標と内容 第 9 回：学級活動の指導計画 1（指導計画作成の基礎・基本） 第 10 回：学級活動の指導計画 2（指導計画の作成） 第 11 回：学級活動の模擬授業 第 12 回：学校行事の目標と内容 第 13 回：学校行事の指導計画 1（指導計画作成の基礎・基本） 第 14 回：学校行事の指導計画 2（指導計画の作成） 第 15 回：学校行事の指導計画 3（指導計画の評価）	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】『実践的指導力をはぐくむ『特別活動指導法』 桑原憲一他編 日本文教出版 中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説 【参考文献】講義内容に応じて適宜紹介		指導案、試験により総合的に評価する。	

03～12 年度 13 年度以降	特別活動 特別活動論（12 年度以前の総政及び交文を含む。）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育方法学	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は教育職の重要性を再検討し、学校教師の役割と機能を確認する。また、各自の教育方法に関する基礎を養成するものである。 【授業の概要】 人間の一生は、日常の様々な直接経験、本、雑誌、TV、インターネットなどのメディアを利用した間接経験、そして言語による理性的・感性的経験を通しての成長過程である。言い換えれば、人間は成熟するまでに非常に長い年月を必要とし、その過程にあつては多くの他者との関わり合いが不可欠である。「蛙の子は蛙」という故事は、人間の成長過程とは異なるものを的確に言い表している。そこには、子どもは他者との様々な相互作用（異なった対応の仕方など）を通して、一人前の人間になっていくというとらえ方がある。教育職は子どもの成長過程に「意図的」に参画する重要な媒介者である。		第1回：プロローグ：概要説明 第2回：コミュニケーションと教育・学習 第3回：教師の役割 第4回：授業を問いかける 第5回：視聴覚メディア 第6回：ビデオ教材による教育現場 第7回：校外専門家による授業 第8回：グループ討論 第9回：授業設計 第10回：測定とは？ 第11回：評価とは？ 第12回：教育方法のイメージ 第13回：ある高等学校の教育実践ビデオ 第14回：教材研究の意義 第15回：エピローグ：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】佐賀啓男編著（2010）『改訂 視聴覚メディアと教育』樹村房文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』 【参考文献】伊藤功一(1992)『魂にうたえる授業』NHKブックス		個人レポート、グループレポート、定期試験等をもとに総合的に評価する。	

03 年度以降	教育方法学	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	生徒指導法	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 生徒理解の教育的意義と具体的な方法について理解を深め、さらに教育活動における生徒指導の基本的なあり方について理解を深め実践的な指導力を身につける。 【授業の概要】 前半は講義中心、後半は事例研究を中心に行う。事例研究を出来るだけ多く行い、具体的な生徒指導のあり方について意見交換を含めて検討していく。		第1回：オリエンテーション 第2回：生徒指導の意義と実際 第3回：学校における生徒指導組織と指導体制 第4回：青年期学習を通じた生徒理解 第5回：生徒指導の進め方と教育相談 第6回：生徒指導と外部機関との連携 第7回：生徒指導と道德教育 第8回：進路指導・キャリア教育と生徒指導 第9回：事例研究（進学指導） 第10回：事例研究（職業指導） 第11回：事例研究（校則問題） 第12回：事例研究（不登校・中途退学問題） 第13回：事例研究（飲酒・喫煙・盗み） 第14回：事例研究（いじめ・校内暴力） 第15回：総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 文部科学省『生徒指導提要』（教育図書） 【参考文献】 特になし		レポートなどの提出物、定期試験等で総合的に評価する。	

03 年度以降	生徒指導法	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	学校カウンセリング	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義では、カウンセリングの基本的な理論や技法に加え、学校現場で生じる問題の解決のために実際にカウンセリングがどのように用いられているのかについて扱う。学校カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることをこの講義の目標とする。 【授業の概要】 本講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要とされるカウンセリングの基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に受講生が考える機会を設ける。		第1回：学校カウンセリングとは何か 第2回：教師が行う学校カウンセリングの特徴 第3回：学校カウンセリングの理論① ー来談者中心療法とカウンセリングマインド 第4回：学校カウンセリングの理論②ーその他の理論 第5回：学校カウンセリングの理論③ ーカウンセリングの体験 第6回：予防的カウンセリング① ー構成的グループエンカウンター 第7回：予防的カウンセリング② ーソーシャルスキルトレーニング 第8回：思春期の心の発達と危機 第9回：学校カウンセリングの実際①：いじめ 第10回：学校カウンセリングの実際②： 不登校・ひきこもり 第11回：学校カウンセリングの実際③：非行 第12回：学校カウンセリングの実際④： 発達障害の理解と支援 第13回：学校カウンセリングの実際⑤： 精神障害の理解と支援 第14回：学校カウンセリングの実際⑥：保護者との協調 第15回：まとめ：学級運営に活かすカウンセリング	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 特になし。 【参考文献】 特になし。講義内で適宜、紹介する。		定期試験の結果によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物等も評価対象とする。	

03 年度以降	学校カウンセリング	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以前 10～12年度	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は秋学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以前 10～12年度	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育実習事前・事後指導 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業(事前指導)、及び、教育実習の反省・フォローアップ(事後指導)を行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 【授業の概要】 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする(事前指導)。また、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理する(事後指導)。		第1回：教育実習とは何か 第2回：教育実習の概要 第3回：学校の組織と教師の職務 第4回：授業研究(1)外国語 第5回：授業研究(2)社会・地歴・公民 第6回：授業研究(3)授業のスキル 第7回：授業研究(4)授業の評価 第8回：学習指導案の書き方 第9回：学習指導案の作成 第10回：模擬授業(1)外国語 第11回：模擬授業(2)社会・地歴・公民 第12回：教育実習期間中の諸注意 第13回：教育実習を振り返る(1)学習指導 第14回：教育実習を振り返る(2)生徒指導 第15回：教育実習を振り返る(3)学級経営	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】獨協大学『教育実習の指針』 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』。その他は、講義の中で紹介する。		授業課題、試験による総合評価	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導) 教職実践演習 (中・高)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は秋学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導) 教職実践演習 (中・高)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【到達目標及びテーマ】 教職課程の総仕上げとして、個々の授業において習得してきた知識技能を元に、教員としての使命感や教育的愛情、授業力等の資質が身についているかどうか確認し、今後の教員としての成長発達につなげる契機とする。また、方法としてディスカッションを多用することで対人能力の確認も含んでいる。 また、これから教員として成長していくために必要な課題を自身で設定し、解決の糸口を探る小論文を作成することで今後の自身の教員としての成長を考える。 【授業の概要】 主に①これまでの教職課程で習得してきた内容と教育実習を振り返り、【教員としての使命感・教育的愛情】、②現在学校が抱えている課題とそれへの対応を、現職教員からの講義やロールプレイ、討論を通してより具体的に考察し、【生徒理解】、③模擬授業を通してよりよい授業力を身につけると同時に授業力向上への方途を探究する。また、授業の多くがグループでのディスカッションや作業の形態をとり、それを通して教員として必須な「他の人と話し合い、協力しあう」という対人関係能力の確認、向上も同時に目指していく。		第1回 教育実習の振り返り①生徒指導・生徒理解編 (グループでのディスカッション小論文)【使命感】 第2回 教育実習の振り返り②授業編 (グループでのディスカッション・学習指導案を再検討)【授業力】 第3回 履修カルテの記入・確認&私に必要なスキルとは？ (各自で課題を設定) 第4回 実習校でのフィールドワーク 第5回 生徒理解① (現職中・高教員による講義・小論文) 【生徒理解】 第6回 生徒理解② (グループディスカッション・小論文) 【生徒理解】 第7回 実習中経験した課題への対応 (グループディスカッション・小論文)【生徒理解】 第8回 すぐれた授業とは何か (グループディスカッション・小論文)【授業力】 第9回 学習指導案を作成する (各自→教科担当教員の指導)【授業力】 第10回 学習指導案を検討する (グループディスカッション)【授業力】 第11回 模擬授業① 第12回 模擬授業② 第13回 模擬授業③ 第14回 模擬授業④ 第15回 まとめ——設定した課題は達成できたか (小論文) 【使命感】	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』(獨協大学) 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』		ディスカッションや作業などへの積極的な参加、発言など授業への貢献、学習指導案、レポートなどの提出物、模擬授業等を総合的に判断する。	

03 年度以降	学校経営と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(授業の到達目標及びテーマ) 学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理・情報管理や人事管理など経営者としての役割と仕事求められる。学校図書館を活用し、総合的な学習など創造的な授業を構築する教員集団の援助活動も求められている。この科目では、これらの役割について、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施できるようになることを学習目的とする。 (授業の概要) 学校図書館は資料センターとしての機能だけでなく、学校教育を基礎として生涯にわたっての自律的な学びの場として学習センターとしての機能がある。さらに視聴覚資料センター、情報センター、教材開発センター、マルチメディア・センターなど多様な面をもっている。学校教育に不可欠と法的に位置づけられている学校図書館の役割と意義について講義する。		(1) 学校図書館の理念と教育的意義 (2) 学校図書館の発展と課題 (3) 教育行政と学校図書館 (4) 学校図書館の経営①施設管理 (5) 学校図書館の経営②資料管理 (6) 学校図書館の経営③人事管理 (7) 学校図書館の経営④財政管理、評価等 (8) 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 (9) 学校図書館メディアの選択と管理 (10) 学校図書館メディアの提供と活用 (11) 学校図書館活動と教育活動 (12) 調べ学習や「総合的な学習」と学校図書館 (13) 図書館の相互協力とネットワーク (14) 学校図書館運営計画の策定 (15) まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に参考文献リストを配布する。		授業参加＋プレゼン(15%)、レポート(40%)、試験(45%)	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	学校図書館メディアの構成	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(授業の到達目標) 学校図書館メディア・センターでの資料管理についての以下の分野で講義・実習。 (1) 資料選択。どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。 (2) 資料組織化の実習および運用。学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。 (授業の概要) 資料選択力を身につける講義及び演習を実施するほか、資料組織化に関する分野で、実習中心で、学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学ぶ。		(1) 図書館での資料整理の目的と意義 (2) 学校図書館メディア資料の種類と特性 (3) 資料選択の理論、子どもたちの知的自由 (4) 資料選択の実際 (5) 日本十進分類法 (NDC) の構造 (6) 分類の実際－主題同定作業⇒情報検索語の特定 (7) 分類の実際－一般補助表の活用－ (8) 分類の実際－学習に応じた分類 (9) 日本目録規則 (NCR) の構造 (10) 目録化の実際 図書 (11) 目録化の実際 図書以外の資料 (12) 目録化の電子化 テキスト・ファイルからデータベース化へ Excel と Access 利用 (13) 目録と情報検索との相関関係 (14) 目録検索の実際 (15) まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類 増訂第4版』2008 年		演習課題 (30%)、情報 DB 作成演習課題 (30%)、最終演習テスト (40%) で評価する。	

03 年度以降	学習指導と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(授業の到達目標及びテーマ) 学習指導における学校図書館のメディア活用についての理解を図る。また、学習指導要領の改訂による「総合的な学習」で、学校図書館の活用が明記されており、その内容にそって、児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。 (授業の概要) 教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で、学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用して、どのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちにしらべてもらうために、教師自身が情報探索能力を身につけておくことが求められるので、情報探索活動能力 (情報リテラシー) 養成を目標とする。グループでの討論を基本に、指導計画作成・発表をおこなう。		(1) 導入；情報探索・情報探求とは？課題解決型学習と学校図書館 (2) 学校図書館情報メディア活用能力の育成 (3) 学習過程における学校図書館メディア活用の実際 (4) 情報探索能力育成 レファレンスと調べ学習 (5) 情報探索能力育成/レファレンスツール利用指導 (6) 情報探索能力育成/インターネット利用指導 (7) 情報探索演習－プレゼンテーション－ (8) 情報探索能力育成のための教育課程 (9) 各教科 (社会や英語など) で学校図書館メディア・センターを利用する教育指導案作成 (10) 「総合的な学習」で学校図書館メディア・センターを利用する教育指導案作成 (11) 特別活動などでの学校図書館メディア・センター利用の活動企画 (12) 学校図書館メディア・センター管理運営年間計画策定 (13) 教師集団との協働 (14) PTA/PTO や地域社会との協働 (15) 教育指導の実際－各受講者の発表・報告－	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で資料を配布するほか、参考資料として宅間紘一著『学校図書館を活用する学び方の指導：課題設定から発表まで』全国学校図書館協議会、2005 ほか。		個人で提出するレポート (20%)、個人でのプレゼン (40%)、グループでの報告と発表 (40%)、で総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(授業の到達目標及びテーマ) 読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちに楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせ実施する。この科目の目標は、各受講者が「読む」(リーディング)と「書く」(リテラシー)という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。「読む」「書く」ことを伝える授業案が作成できるようになることを第一段階とする。その基本として司書教諭となる受講者が「読書」していることが出発点となる。 (授業の概要) 大量に読むことではなく、どのように読み解くかを授業で学ぶ。また、どのように伝えていくかを学ぶ。言語教育・リテラシー学習の基本の一つである子どもの読書を推進するため、学校教育のなかで言語教育担当教員のみならず、すべての教員の調整役＝コーディネーターとしての学校図書館司書教諭は重要な役割を担っている。この科目ではその役割をはたすため、どのような読書資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリテラシー教育に活用するのかを学び、かつ学校内外での調整役としての役割と責任を学習する。		(1)子どもの読書状況 (2)読む・書くという識字力・読書力について考える (3)子どもの発達心理・読書心理、読書傾向と知的好奇心 (4)読書資料としての絵本 (5)読書資料としての児童文学 (6)読書資料としてのノンフィクション (7)読書資料としてのヤングアダルト文学 (8)読書指導のためのプログラム検討 (9)読者育成のためのブックトーク実践 (10)「読みて」から「書いて」育成のための教案作成 (11)家庭での読書 (12)地域社会や公共図書館との連携による読書振興 (13)子どもの読書と知的自由 (14)子どもの読書をめぐる法政策 (15)まとめ ※絵本や児童書・YA 向けの読物などを多量に読んでもらうことになる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、授業で資料を配布する。		授業でのプレゼンテーション(30%)、課題(30%)、テスト(40%)で評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】インターネット、そしてその上で展開されたさまざまなサービス（メールやウェブ、あるいは昨今の SNS など）によって、大量かつ多様な情報がやりとりされたり蓄積されたりしてきた。電子的な通信メディアや記録メディアによって世界中の人々がコミュニケーションを行っているのである。しかし、情報を媒介するものは電子的なものに限らない。たとえば従来の図書や雑誌といった印刷メディアは簡単に思いつくことができるが、そのほかにどのようなメディアが存在するのだろうか。この授業では情報の「乗り物」であるメディアの体系を理解することを目的とする。また、情報の発信、収集、交換といったメディアの利活用についても関連するトピック（学校教育／図書館など）とともに学習する。 【概要】はじめに、現在までのメディアの発達と変化について検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。また、メディアの分類およびそれぞれの特性について学習し、目的や状況（例：学校教育／図書館）に応じてどのようなメディアを選択すべきかを考察する。次に、情報の発信、収集、交換という3つの情報利用行動をとりあげ、それぞれの具体的なあり方を実際のメディアを用いた演習を通して理解する。そして、メディアの取り扱いについて注意すべき点を、有害性／安全性や著作権との関わりから議論し、最後に授業全体のまとめを行う。		1. 講義の概要 2. メディアの種類；高度情報社会；学校教育 3. メディアとコンピュータネットワーク 4. メディアによる情報の発信（1）ウェブの標準技術（HTTP、URI、HTML）を例として 5. メディアによる情報の発信（2）ハイパーテキスト再考 6. メディアによる情報の交換：コミュニケーションの場としてのインターネット 7. 前半のまとめ：メディアを利用した情報の発信と交換、質疑応答 8. データベースと情報検索（1）：情報収集の例として 9. データベースと情報検索（2）：簡単な検索式の作成 10. インターネットにおける情報の検索 11. 獨協大学図書館を通じて利用できる多様なデータベース；教育／学習への応用 12. 情報検索以外の情報収集：SNS、RSS など 13. 取り扱いに注意すべき情報：有害情報、個人情報 14. メディアと著作権（学校教育関連事項を含む） 15. まとめ：これからのメディアの利活用；質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。		期末レポート（50%）。平常授業における課題レポートなどの実績（50%）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前 13 年度以降	生涯学習概論 生涯学習概論	担当者	阪本 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちは、その成長・発達に応じて、人間として学ぶべき課題を持っています。また、少子高齢化、都市化、国際化など、社会の様々な変化に対応した学習が絶えず求められています。生涯学習は、私たちの教育や学習に対する考え方を大きく転換させ、現代社会のなかで重要な意味を持っています。 本講義では、生涯学習に関する基本的な考え方を学ぶとともに、生涯学習社会における家庭教育、学校教育、社会教育の在り方や、現代社会と生涯学習の関わりについて考えます。 受講生の人数にもよりますが、講義形式だけでなく、様々な学習方法を体験する演習を取り込みながら進めていきます。		1. ガイダンス 2. 人間の形成・発達と学習 3. 社会の変化と学習 4. 生涯学習の理念とその背景 5. 生涯学習の学習論 6. 生涯学習と家庭教育 7. 生涯学習と学校教育 8. 生涯学習と社会教育 9. さまざまな学習方法を体験する①（演習） 10. さまざまな学習方法を体験する②（演習） 11. さまざまな学習方法を体験する③（演習） 12. 学習形態・技法と学習支援者の役割 13. 生涯学習施設の機能と役割 14. 生涯学習行政の現状と課題 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しません。レジュメ等、資料を配布して授業を進めます。ガイダンスで全体に関わる参考文献を紹介する他、授業中にそれぞれのテーマの参考文献を紹介します。		7割以上の出席を学期末レポートの提出資格とします。講義中の課題、参加態度、学年末レポートを総合的に評価します。	

03 年度以降	介護ボランティアの理論と実践	担当者	山口 友佑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は教職課程の「介護等体験」履修時など、「介護」を必要とする方と接する際に求められる知識や援助について、基本的な理解を深めることを目的としています。そこで、介護について高齢者福祉分野を中心に各分野の福祉について概観したのち、ボランティア全般について、さらには介護現場や地域におけるボランティア実践について学びを進めていきます。 講義ではVTRなどを通して、具体的な理解を深めていきます。まず、介護の概念と歴史、高齢者福祉にかかわる制度政策、介護の現場と介護技術について学びます。次に、ボランティアの概念、日本でのボランティア活動の展開、介護分野や地域におけるボランティアな実践について学びます。そして、地域で暮らす人々の生活を支えるために私たちができること、また介護現場における問題について考えます。		1. オリエンテーション 2. 介護の歴史と定義 3. 介護の現場—高齢者分野 4. 介護の現場—障害者分野、児童分野 5. 社会福祉関係法令に見る介護 6. 介護保険制度について 7. 生活を支えるための介護技術 8. 認知症の理解と対応 9. ボランティアな活動の展開とその定義 10. 多様なボランティア活動の実際 11. 介護現場でのボランティア 12. ボランティア活動における留意点 13. 地域で暮らす人の生活を支える 14. 介護にかかわる現代的課題 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しません。講義中に適宜、コピーの配布・文献の紹介を行います。		平常点（40%、授業中に課す小レポートの提出などを含む）及び、期末試験（60%、またはレポート）により評価します。	

03 年度以降	介護ボランティアの理論と実践	担当者	山岸 倫子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、障害者や高齢者を中心とする介護の領域におけるボランティア活動の意義と目的、実践活動について学びます。 介護の歴史や概念、特質を踏まえたうえで、実際に介護にかかわる際の基本的姿勢及び実践的知識を学び、制度とボランティアの関係性についてとらえることを目的とし、具体的な例を提示しながら、ボランティアがどのように介護ニーズを満たしていくのかということについて学習していきます。 また、介護がボランティアでなされる場合の課題、批判点などにも目を向け、総合的な視点から介護とボランティアについて考えてゆく講義を予定しています。		1. 介護の歴史 2. 介護とは何か 3. 介護の種類 4. 介護保険法 5. 障害者総合支援法 6. 介護と「制度の狭間」 7. 介護実践のための基本的知識 8. 介護の基本姿勢・基本技術 9. グループワーク 10. ボランティアとは何か 11. ボランティアの歴史 12. 介護ボランティアの実践領域 13. 介護ボランティアと教育 14. 介護ボランティアの課題 15. まとめと展望	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しません。講義中に随時紹介いたします。		授業態度・意欲：40% 提出課題：30% 期末試験：30%	

03 年度以降	日本史概説 I	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的に捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況をふまえ、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料にも着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。 極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。 高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。		1. 日本とは？歴史とは？ 2. 日本における歴史研究の歴史—史学史①— 3. 日本における歴史研究の歴史—史学史②— 4. 古代の社会—弥生のムラとクニ①— 5. 古代の社会—弥生のムラとクニ②— 6. 古代の社会—ワカタケル大王の時代①— 7. 古代の社会—ワカタケル大王の時代②— 8. 古代の社会—律令制の形成と展開— 9. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界①— 10. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界②— 11. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く①— 12. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く②— 13. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く③— 14. 中世から近世へ① 15. まとめ—中世社会の特質—	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元があれば参考になる。授業の計画は授業展開により変更されることもある。		試験とともに出席状況なども含め総合的に評価する。（許可なき途中退出などは厳禁）	

03 年度以降	日本史概説 II	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
日本史概説 I に続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて、現代の国際化社会における日本のあり方、さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。		1. 海禁と華夷秩序の形成・展開 2. 日本型華夷秩序構築の可能性と展開 3. 「鎖国」論をめぐって① 4. 「鎖国」論をめぐって② 5. 近世の本草学と博物学① 6. 近世の本草学と博物学② 7. 近代の対外認識① 8. 近代の対外認識② —「近代」と「他者」へのまなざし— 9. 国民国家論とは 10. 博覧会・博物館と国民国家① 11. 博覧会・博物館と国民国家② 12. 博覧会・博物館と国民国家③ 13. 戦争の世紀と万博① 14. 戦争の世紀と万博② 15. まとめ—こんにちの歴史学・歴史教育の課題—	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元があれば参考になる。授業の計画は授業展開により変更されることもある。		試験とともに出席状況なども含め総合的に評価する。（許可なき途中退出などは厳禁）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	外国史概説 I	担当者	兼田 信一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、はじめに現代中国の地理的・風土の特徴や、近年の中国事情や社会問題を概観した後、新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史を、政治的展開、周辺諸民族との関係、農村社会の展開の3つを軸に概観していきます。 中国社会の特質を考える際、特に農村社会に注目するのは、農村社会こそ前近代中国において多くの人々の生きる場であり、そこで形成される諸関係が、中国社会の特質の一端であることと、現在の中国において最も深刻な問題を抱えているのが農村社会でもあるからです。 本講義では、単に新石器時代から唐帝国滅亡までの政治的展開を概観するだけでなく、同時に農村社会の成立と展開を見ることで、中国社会の特質にふれてもらうと同時に、われわれ日本社会との対比をしながら「異文化社会中国」どう理解するか、ともに考えてみたいと思います。 なお、付論として、南宋の裁判史料『清明集』をもとに宋以後近代までの中国社会の一端を提示し、また、1940年に白堅なる人物が、後の東条英機内閣の文部大臣岡部長景に宛てた書簡を通じて戦前・戦中の日中間にさまざまな交流のチャンネルのあったことを見てみたいと思います。		1. オリエンテーション 2. 現代中国概況（地誌・現代中国社会の諸問題） 3. 中華文明の形成（新石器時代～殷周時代） 4. 最初の社会変動と小家族農民の登場（春秋戦国時代） 5. 皇帝支配の成立・展開と周辺諸民族（秦・前漢時代） 6. 皇帝支配の成立と郷里社会（秦・前漢時代） 7. 豪族の成長と郷里社会の変質（後漢時代） 8. 後漢の崩壊と社会変動、貴族の登場（三国・西晋時代） 9. 少数民族の侵入と長期の分裂（五胡十六国・東晋、南北朝時代） 10. 中国の再統一と東アジア世界の展開（隋・初唐） 11. 唐帝国の盛衰①（唐律令体制と郷里社会） 12. 唐帝国の盛衰②（律令制支配の崩壊と藩鎮体制） 13. 宋代以降の中国社会の一面―大澤正昭編『主張する愚民たち』をもとに― 14. 白堅と岡部長景―日中戦争期の文化交流の一端から見る両国関係の特質― 15. まとめ（中国社会の特質）	
テキスト、参考文献		評価方法	
堀敏一『中国通史』（講談社学術文庫）、講談社、2000年6月。講義中に配布するプリント・資料を基本テキストとする。また、参考文献も講義中に紹介する。		授業参加評価（3割）と筆記試験（7割）（語句記述、史料問題その他、持ち込み不可）の成績で評価を出す。	

03 年度以降	外国史概説Ⅱ	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパ諸国の「近代化」過程を社会・文化・経済・宗教等の側面から考察する。「近代化」の特質とその功罪を検証し、明治以降のわが国に及ぼした影響を与えたか、という点もあわせて論じたい。 16世紀頃から19世紀までの歴史的事象の中から、ヨーロッパ圏内はもとより、周辺世界に対してもインパクトが大であった事項を取り上げる。前半は宗教的側面から、後半は経済的側面を中心にアプローチしたい。 また「近代化」の帰結として現れた「帝国主義」の諸類型についても言及したい。 テキストは特に指定しないが、下に掲げた参考文献中、2冊程度は目を通してほしい。 - 小川 哲／上垣 豊／山田史郎／杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史（近現代）』（ミネルヴァ書房） - 中井義明／佐藤専次／渋谷 聡／加藤克夫／小澤卓也編『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房） - 遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会） - 堺憲一『あなたが歴史と出会うとき』【新版】（名古屋大学出版会）		1. オリエンテーション 2. 歴史叙述・歴史理論の変遷（古代～中世） 3. 同上 4. 歴史叙述・歴史理論の変遷（近代以降） 5. 同上 6. 「近代」～その概念と位置付け 7. 宗教改革～その背景と「近代」の扉を開かせたインパクトについて 8. 同上 9. 市民革命～英仏両革命の共通性と異質性を分析し、両国の国民性について考察する 10. 同上 11. 産業革命～拝金主義と社会の諸矛盾、社会主義の必然性について考察する 12. 同上 13. 「近代化」総括。 14. 帝国主義～資本主義の矛盾と限界、経済活動と戦争とがいかに密接であるかを考える 15. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の参考文献を参照のこと。 また、高校世界史教科書及び、図録なども座右に置くことが望ましい。		期末試験（記述形式、ノート持込不可）の結果によって評価するが、授業への参加度も考慮する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理学概説 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。 本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。 ＊講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。 ＊中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理 B および地図帳）を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する。）		1. オリエンテーション（講義の概要） 2. 地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識 3. 地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形 4. 地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む 5. 東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6. 東京・関東の地形的特色(2)台地 7. 東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8. 東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9. 東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10. 東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール、気候と景観、観測とデータ 11. 東京・関東の気候的特色(2)山地の気候・平野の気候 12. 東京・関東の気候的特色(3)海岸の気候・内陸の気候 13. 東京・関東の気候的特色(4)都市気候と気候の変化 14. 東京・関東の自然災害と防災(1) 15. 東京・関東の自然災害と防災(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		定期試験とレポート（小課題）	

03 年度以降	地理学概説 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。 本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。 ＊中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理 B および地図帳）を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する）		1. 地理学の歴史（1） 2. 地理学の歴史（2） 3. 地理学の歴史（3） 4. 地理学の主要概念（1）環境 5. 地理学の主要概念（2）景観 6. 地理学の主要概念（3）場所と立地（1） 7. 地理学の主要概念（4）場所と立地（2） 8. 地理学の主要概念（5）場所と立地（3） 9. 地理学の主要概念（6）地域と空間 10. 地理学の主要概念（7）伝播 11. 地理学のトピックス（1）メンタルマップ 12. 地理学のトピックス（2）時間地理学 13. 地理学のトピックス（3）地理情報システム（1） 14. 地理学のトピックス（4）地理情報システム（2） 15. 地理学のトピックス（5）教育と地理	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		定期試験とレポート（小課題）	

03 年度以降	地誌学概説 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。 本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。 ＊講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。 ＊地図帳を持参すること。 ＊中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理 B および地図帳）を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する）		1. オリエンテーションー地誌学とは 2. 「地域」の概念 3. 地域分析の基礎（1）文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎（2）統計の利用 5. 地域分析の基礎（3）統計の地図表現 6. 地域分析の基礎（4）空間分析 7. 地域分析の基礎（5）地域構造 8. 日本地誌（1）自然環境と風土 9. 日本地誌（2）歴史的背景と地域文化 10. 日本地誌（3）人口分布と人口構造 11. 日本地誌（4）産業と地域変容（1） 12. 日本地誌（5）産業と地域変容（2） 13. 日本地誌（6）交通・通信と地域 14. 日本地誌（7）都市の変容 15. 日本地誌（8）地域構造と地域区分	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）	

03 年度以降	地誌学概説 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、北アメリカ（アメリカ合衆国およびカナダ）を事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。 ＊地図帳を持参すること。 ＊中学校「社会」高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理 B および地図帳）を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する）		1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容（1）自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容（2）文化圏 4. 世界の地域構造とその変容（3）国家と経済 5. 北アメリカ地誌（1）アメリカの地域区分 6. 北アメリカ地誌（2）自然景観（1） 7. 北アメリカ地誌（3）自然景観（2） 8. 北アメリカ地誌（3）歴史的背景 9. 北アメリカ地誌（4）人口と社会 10. 北アメリカ地誌（5）産業と経済（1） 11. 北アメリカ地誌（6）産業と経済（2） 12. 北アメリカ地誌（7）産業と経済（3） 13. 北アメリカ地誌（8）産業と経済（4） 14. 北アメリカ地誌（9）都市と生活 15. 北アメリカ地誌（10）北アメリカと世界	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）	

03 年度以降	法律学概説 I	担当者	大川 俊
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の「法律学概説 I」では、法律を大きく二つに分類した場合の公法と私法のうち、後者に焦点を当てます。私法とは、自由・対等な私人間（個人間だけでなく、企業間、あるいは企業と個人間も含まれる）の法律関係を規律する法の総称です。本講はこれらの背後に存する基本的な考え方を理解することを目的とします。 買い物をすれば、取り立てて意識しなくとも、そこでは売買契約が成立するといったように、我々が日常生活を送る上では様々な形で法律が関わってきます。本講では、身の回りの法律関係から、現代の経済社会で主要な役割を果たす企業を取り巻く法律関係などについて具体的事例を織り交ぜながら解説します。		1. ガイダンス 2. 日常生活と契約（1） 3. 日常生活と契約（2） 4. 日常生活とアクシデント（1） 5. 日常生活とアクシデント（2） 6. 雇用社会のルール（1） 7. 雇用社会のルール（2） 8. 家族関係（1） 9. 家族関係（2） 10. 企業と法（1） 11. 企業と法（2） 12. 企業と法（3） 13. 消費者の保護（1） 14. 消費者の保護（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストとして、池田真朗ほか著『法の世界へ〔第5版〕』（有斐閣、2012年）を指定します。小型の『六法』も適宜参照しますので、持参してください。		学期末の筆記試験（100％）により評価します。	

03 年度以降	法律学概説 II	担当者	木藤 茂
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の「法律学概説 II」では、春学期の「法律学概説 I」の理解を前提として、以下のような大きく2つの目的を意識しつつ、日本における法と法学について、いくつかの角度から様々な素材をもとに概観を行います。 第1に、日本における法ないし法律をめぐる基本的な事柄・論点等の理解を通して、法学ないし法学を学ぶ意味、あるいは「論理的思考力」「法的思考力」「リーガルマインド」といった言葉の意味を、法学部生ではないみなさんにこそこの機会に実感してもらいたいと思います。 第2に、春学期では「私法」の分野の内容が主に取り上げられてきたことを前提に、秋学期では「公法」の分野におけるいくつかの重要な法制度や法的論点について基礎的な知識・理解を得ることを、内容面での課題とします。 なお、特に第1の点にも関係しますが、この講義では、単なる知識の丸暗記ではなく自らの頭で理解しそれを基に適切な概念を用いて自らの言葉で表現するという、高校までとは違った“大学での学問”というものを意識し実践してもらうことにも重点を置きますので、こうした趣旨を十分に認識した上で講義に臨んでください。 この講義を通じて、法学という学問あるいは法学部生の日々の勉強の一端を垣間見ていただければと思います。		1. ガイダンス 2. 日本における法と法学（1） 3. 日本における法と法学（2） 4. 日本における法と法学（3） 5. 日本における法と法学（4） 6. 日本における法と法学（5） 7. 行政活動と法（1） 8. 行政活動と法（2） 9. 行政活動と法（3） 10. 行政活動と法（4） 11. 行政活動と法（5） 12. 行政活動と法（6） 13. 行政活動と法（7） 14. 行政活動と法（8） 15. まとめ ※ 講義は、基本的には、教員が作成するレジュメの流れに沿って行います。 レジュメは、「獨協大学ポータルサイト」から各自で予めダウンロード・印刷して教室に持参してもらいますが、詳細はガイダンスで説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は使用しません。他方で、数多くの具体的な法令の条文を随時参照しますが、その準備は各自で行ってもらいます。詳細はガイダンスで説明します。		学期末の筆記試験（100％）により評価します。 ただし、受講人数によっては、出席状況確認等の意味も含めて、随時レポート等を課す場合もあります。	

03 年度以降	政治学概説 I	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に異なっていた時代にあつては、支配身分のための「よき統治」のための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一であるとされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であり、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけではない、それ以上に市民こそ政治についての教養を身につける必要があると言える。そのような意味で、政治学は私たち市民の教養の学である。 以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、現代政治に対する見通しを得ることを目的とする。 秋学期は、民主政治の歴史、国民国家と福祉国家、議院内閣制、選挙、政党、議会の制度と政治過程を講義する。		1. 古代の民主政治 2. 近代の民主政治 3. 自由主義と民主政治 4. 国民国家と民主政治 5. 民主政治への挑戦 6. 民主政治の再定義 7. 福祉国家の成立とその構造 8. 福祉国家をめぐる論争 9. 議院内閣制と大統領制 10. 日本の議院内閣制 11. 多数決型民主政治と合意形成型民主政治 12. 選挙制度と投票行動 13. 日本の選挙 14. 議会 15. 政党と政党制	
テキスト、参考文献		評価方法	
川出良枝・谷口将起編『政治学』東京大学出版会, 2012 年. ISBN: 978-4-13—32219-5		学期末試験による	

03 年度以降	政治学概説 II	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に異なっていた時代にあつては、支配身分のための「よき統治」のための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一であるとされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であり、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけではない、それ以上に市民こそ政治についての教養を身につける必要があると言える。そのような意味で、政治学は私たち市民の教養の学である。 以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、現代政治に対する見通しを得ることを目的とする。 秋学期は、政策過程と官僚制、世論とマスメディア、地方自治、グローバル化、政治参加を講義する。		1. 戦後日本の政党政治 2. 政策過程 3. 官僚 4. 利益集団 5. 世論形成とマスメディア 6. 政治とメディアをめぐる諸問題 7. 地方自治の制度 8. 地方政治の動向 9. 主権国家体制 10. 国際秩序構想の諸相 11. グローバル・イシュー 12. 政治参加の理論 13. アイデンティティと承認をめぐる政治 14. ジェンダーと政治 15. 討議による民主政治の重層化	
テキスト、参考文献		評価方法	
川出良枝・谷口将起編『政治学』東京大学出版会, 2012 年. ISBN: 978-4-13—32219-5		学期末試験による。	

03 年度以降	社会学概説 I	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者 other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。 本講義では、社会学の基礎知識をふまえたうえで、先行研究を現代的な文脈で考えてみたい。本講義のねらいは、社会学という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点とはどういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとらえて社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えることである。		1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（１）——A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（２）——E.デュルケム 5. 社会学の歴史（３）——M.ウェーバー 6. 社会の類型（１）——コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（２）——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 8. 社会の類型（３）——第一次集団 9. Identity形成と社会（１）——鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（２）——重要な他者 11. Identity形成と社会（３）——マージナル・マン 12. Identity形成と社会（４）—— 未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. 他者と自己の社会学 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣		授業への積極性（50%）と授業内／期末レポート（50%） 【履修者多数の場合、期末試験を行う】	

03 年度以降	社会学概説 II	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちが日常的に行っていることや考えていることを、あるいは、他者とともに過ごすときに生じる様々な問題を、社会学的な見方から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。 本講義では、近代の都市社会が抱えてきた問題をめぐる社会学の研究業績を学び、それを手がかりにしながら、わたしたちにとっての身近な出来事を社会学的に考えてみたい。おもに「都市」「移民」「地域」「大量消費」といった概念を中心に扱う。 受講者には、グローバリゼーションのもとで日本社会がこれから直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるか／必要とされてくるのかについても同時に意識してもらいたい。		1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の３類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 予言の自己成就——R.K.マートン 8. 誇示的消費——T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー 10. 文化的再生産——P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ 12. 現代社会と社会学（１）情報技術とメディア 13. 現代社会と社会学（２）グローバル化 14. 現代社会と社会学（３）ローカル化 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか		授業への積極性（50%）と授業内／期末レポート（50%） 【履修者多数の場合、期末試験を行う】	

03 年度以降	哲学概説 I	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。 西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。 西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。 個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的位置付けなどを重視して論じる。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。		1 哲学とは何か（1） 2 ソクラテス以前 3 〃 4 ソクラテス 5 プラトン 6 〃 7 アリストテレス 8 〃 9 スコラ哲学 10 〃 11 科学革命 12 〃 13 合理論 14 〃 15 〃	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント資料配布（実費 300 円） 文献は随時紹介する。		レポート点を試験の点に加算 （出席は 2 / 3 以上必要）	

03 年度以降	哲学概説 II	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
（春学期に同じ） 秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。		1 経験論 2 〃 3 社会契約説 4 カント 5 〃 6 ドイツ観念論 7 〃 8 キルケゴール・マルクス・ニーチェ 9 〃 10 フッサール・ハイデッガー・ヤスパーズ 11 〃 12 ウィトゲンシュタイン 13 構造主義 14 言語哲学 15 哲学とは何か（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント資料配布（実費 300 円） 文献は随時紹介する。		レポート点を試験の点に加算 （出席は 2 / 3 以上必要）	

03 年度以降	倫理学概説Ⅰ	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 この学期では現代の哲学的諸問題について扱っていく。もちろん古代～近代の哲学者たちの考察は参考にされる。 現代は画像・映像といったイメージがさまざまなメディアで飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを〈記憶〉と〈歴史〉の問題として受けとめ、考察していきたい。 授業は教科書を中心に進められる。教科書にまとめられている内容を要約ないし発展的にふくらませる補足説明を、毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。		1. 導入（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. プラトンの記憶論「記憶は足跡か、絵画か？」 3. アリストテレスの記憶論 4. ベルクソンの記憶論「イメージ - 思い出」 5. サルトルの記憶論「幻覚」 6. フッサールの記憶論「想像と記憶を区別する？」 7. 個人的記憶と集合的記憶 8. 〈心性史〉の歴史記述 9. 〈表象史〉の歴史記述 10. 王の肖像 —— イマージュの魅惑 11. 裁判官と歴史家 —— 公正な第三者とは？ 12. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる（1） 13. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる（2） 14. 「困難な赦し」 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —— リコールと「記憶、歴史、忘却」』（京都大学学術出版会）		学期末試験による。 ただし各授業回で教科書内容の要約・補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に<u>約 20 点</u>を加点する予定。	

03 年度以降	倫理学概説Ⅱ	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、近代のニーチェまでをこの学期で広く見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。		1. 導入（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. プラトン（1）「ソクラテスの死から」 3. プラトン（2）「イデアという理想」 4. アリストテレス「人間は知ること欲する」 5. エピクロス派、ストア派 6. デカルト（1）「私は思考する、ゆえに私は在る」 7. デカルト（2）永遠真理創造説 8. デカルト（3）四つの暫定的道徳 9. パスカル「きみはどちらに賭ける？」 10. ルソー（1）「人づきあいが人間を不幸にする」 11. ルソー（2）「理想的な教育とは」 12. ニーチェ（1）「きみは永遠回帰に耐えられるか」 13. ニーチェ（2）「音楽と悲劇」 14. ニーチェ（3）「ニヒリズムに面して」 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ドミニク・フォルシェー『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』（白水社・文庫クセジュ）		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に<u>約 20 点</u>を加点する予定。	

03 年度以降	宗教学概説 I	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。 そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。 更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。 春学期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。		1 宗教とは何か (1) 2 神話と宗教 3 ユダヤ教 (1) 4 ユダヤ教 (2) 5 キリスト教 (1) 6 キリスト教 (2) 7 キリスト教 (3) 8 キリスト教 (4) 9 イスラム教 (1) 10 イスラム教 (2) 11 イスラム教 (3) 12 イスラム教 (4) 13 ヒンドゥ教 (1) 14 ヒンドゥ教 (2) 15 ヒンドゥ教 (3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫 文献は随時紹介する		レポート点を試験の点に加算 (出席は 2/3 以上必要)	

03 年度以降	宗教学概説 II	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。 秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。		1 仏教 (1) 2 仏教 (2) 3 仏教 (3) 4 仏教 (4) 5 儒教 (1) 6 儒教 (2) 7 道教 8 日本の宗教の歴史と現在 (1) 9 日本の宗教の歴史と現在 (2) 10 日本の宗教の歴史と現在 (3) 11 宗教上の諸概念 (儀礼・戒律・修行など) 12 宗教団体の諸問題 (1) 13 宗教団体の諸問題 (2) 14 学校教育と宗教 15 宗教とは何か (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫 文献は随時紹介する		レポート点を試験の点に加算 (出席は 2/3 以上必要)	

03 年度以降	心理学概説 I	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

03 年度以降	心理学概説 II	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000 円程度）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。		授業計画は以下のとおりである。 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. 感情指数 9. 職業興味 10. グループ・ワークによる自己理解① 11. グループ・ワークによる自己理解② 12. グループ・ワークによる自己理解③ 13. グループ・ワークによる自己理解④ 14. グループ・ワークによる自己理解⑤ 15. 心理検査による自己理解のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。		実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらおう。また、最終レポートを課す。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。	

13 年度以降	東洋史 I	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 (講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。 なお、毎回出席をとる。		1 イスラームの基本を説明する。 2 イスラーム誕生以前の西アジア世界について。 3 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と時代背景。 4 最初の4人のカリフ（正統カリフ）の時代について。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7 聖典コーラン。預言者の言行録ハディースと解釈。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点。 11 同その2 12 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13 同その2 14 イスラーム教徒の生活と社会 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。授業で指示する。		学期末レポートによる評価（70%）が中心だが、平常の貢献度も評価対象（30%）となる。 なおレポートの表紙は授業で配布するので注意すること。	

13 年度以降	東洋史 II	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 (講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるようにしたい。 なお、毎回出席をとる。		1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概説する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフイズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 同その2 13 旧ソ連におけるイスラーム。 14 イスラーム主義の主張と展開 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。授業で指示する。		学期末レポートによる評価（70%）が中心だが、平常の貢献度も評価対象（30%）となる。 なおレポートの表紙は授業で配布するので注意すること。	

13 年度以降	東洋史 I	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		第1回： 講義の概要 第2回： 清朝体制下の国家 第3回： 清朝体制下の社会 第4回： アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 第5回： 太平天国 第6回： 体制の反撃 第7回： 洋務運動 第8回： 中体西用の諸相 第9回： 開港場の社会と経済 第10回： 周辺地域宗主権の喪失 1 第11回： 周辺地域宗主権の喪失 2 第12回： 琉球問題と台湾出兵 第13回： 朝鮮をめぐる日中対立 1 第14回： 朝鮮をめぐる日中対立 2 第15回： 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008 年。		平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%	

13 年度以降	東洋史 II	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		第1回： 講義の概要 第2回： 日清戦争 第3回： 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 第4回： 変法改革 第5回： 戊戌の政変 第6回： キリスト教布教と仇教運動 第7回： 義和団の蜂起 1 第8回： 義和団の蜂起 2 第9回： 纏足問題と天足運動 1 第10回： 纏足問題と天足運動 2 第11回： 革命派の台頭 第12回： 光緒新政と地方自治の試み 第13回： 王朝体制の崩壊と中華民国の成立 第14回： 第二革命と袁世凱政権の成立 第15回： 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008 年。		平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%	

13 年度以降	西洋史 I	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「歴史学とはどのような学問なのか」について、ヨーロッパ史を例にして概観し、歴史学の方法と対象、叙述スタイルについて理解を深めるとともに、現代においてなぜ歴史を学ぶ必要があるのかについて考えていく。 最初に、古代ギリシアの歴史家ヘロドトスから実証史学の立役者ランケを経て、社会史を唱えたアナール学派、20 世紀後半以来歴史学の中心を占めるようになった文化史に至るまでの歴史学の歴史を簡単に紹介する。そして、いくつかの代表的な歴史研究の事例を挙げながら、歴史学の方法と対象について理解を深める。 受講生には、講義を通じて歴史学における思考方法を学んでほしい。		第1回 授業ガイダンス「なぜ歴史を学ぶのか？」 第2回 歴史学の歴史 (I) 歴史学の誕生 第3回 歴史学の歴史 (II) 実証史学への挑戦 第4回 歴史学の歴史 (III) 新しい歴史学：文化史の台頭 第5回 歴史学の方法と対象 (I) 総論 第6回 歴史学の方法と対象 (II) マイクロヒストリー 第7回 歴史学の方法と対象 (III) グローバルヒストリー 第8回 歴史学の方法と対象 (IV) 歴史人類学 第9回 歴史学の方法と対象 (V) 記憶の歴史 第10回 歴史学の方法と対象 (VI) 書物の歴史 第11回 歴史学の方法と対象 (VII) ジェンダー史 第12回 歴史学の方法と対象 (VIII) 語りえぬものの歴史 第13回 歴史学の方法と対象 (IX) ナショナリズム 第14回 まとめ 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の中で適宜指示する		期末レポートによって評価する予定であるが、平常授業における課題などの実績も評価対象とする。	

13 年度以降	西洋史 II	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ハプスブルク君主国の歴史を通史的に把握することで、現在に至るまでのヨーロッパの歴史と文化について理解を深めるとともに、歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。 ハプスブルク君主国は中世から第一次世界大戦の終わりまでヨーロッパに存在した国家である。ここでは便宜上「ハプスブルク君主国」と呼んでいるが、実は 19 世紀になるまで正式な国家名称は存在することもなく、とらえどころのないあいまいな国家であった。その支配領域も中核となったオーストリア諸邦に加え、現在のチェコ、スロヴァキア、ハンガリー、スロヴェニア、クロアチア等々、多岐にわたり、言語構成も民族構成も多様であった。このような捉えどころのない国家がいかにして成立し、どのようにして維持され、またどのように終焉を迎えたのか。さまざまな問題をはらみながらも 800 年近く存在しえたハプスブルクの歴史を学んでいく。		第1回 授業ガイダンス「ハプスブルク君主国」 第2回 ハプスブルク君主国の特色 第3回 ハプスブルクの歴史 (I) 婚姻政策による拡大 第4回 ハプスブルクの歴史 (II) オーストリア家 第5回 ハプスブルクの歴史 (III) 三十年戦争 第6回 ハプスブルクの歴史 (IV) ヴェストファーレン体制 第7回 ハプスブルクの歴史 (V) 第二次ウィーン包囲 第8回 ハプスブルクの歴史 (VI) 国事詔書とマリア・テレジア 第9回 ハプスブルクの歴史 (VII) ヨーゼフ 2 世の啓蒙改革 第10回 ハプスブルクの歴史 (VIII) ウィーン会議 第11回 ハプスブルクの歴史 (IX) 1848 年革命 第12回 ハプスブルクの歴史 (X) アウスグライヒ 第13回 ハプスブルクの歴史 (XI) 第一次世界大戦 第14回 ポスト・ハプスブルクの時代 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門』昭和堂、2013 年；ロビン・オーキー『ハプスブルク君主国 1765-1918』NTT 出版、2010 年 そのほか講義の中で適宜指示する		期末レポートによって評価するが、平常授業における課題などの実績も評価対象とする。	

13 年度以降	西洋史 I	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。最新の現場から説きおこし、問題の根源となる中世ヨーロッパのユダヤ人差別までさかのぼる。		1. パレスチナは独立国家たりうるのか 2. アメリカはなぜ公平な仲介者となりえないのか 3. イスラエル国防軍を掌握する宗教シオニスト 4. 在米キリスト教徒のシオニスト 5. イスラエル・ロビーの番付表 6. 最強のイスラエル・ロビーとは 7. 弟分、在欧イスラエル・ロビー 8. アラブ・ロビーはなぜ脆弱なのか 9. 中世英国のユダヤ人金融 10. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290～1656 11. 千年王国論とユダヤ人再入国 12. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 13. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生メカニズム 14. 英国シオニスト勢力 15. ホロコースト難民	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行『アメリカがイスラエルを見捨てる日は来るのか』（仮題）日新報道、14 年 3 月刊行予定、1500 円位 佐藤唯行『英国ユダヤ人』講談社選書、1600 円		20 問 8 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可	

13 年度以降	西洋史 II	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。		1. アメリカ先住民 2. 越境するヒスパニック 3. 今を生きる黒人 4. 歴史の中の黒人 5. 等身大のユダヤ人 6. 声なき少数派、アジア系 7. ホワイト・エスニック 8. アメリカ政治とユダヤ人 9. 移民マイノリティの政党、民主党との同盟成立 10. 在米イスラム教徒の政治力 11. 共和党支持の中核、キリスト教福音派 12. ヒスパニック社会に対する福音派の宣教運動 13. キリスト教シオニストの圧力団体 14. 親パレスチナに傾く主流派教会 15. 2016 年大統領選とエスニック・マイノリティー	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行『映画で学ぶエスニックアメリカ』（2008 年 NTT 選書 1600 円） 佐藤唯行『アメリカがイスラエルを見捨てる日は来るのか』（仮題）日新報道、14 年 3 月刊行予定、1500 円位		20 問 8 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可	

13 年度以降	地理学 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。		1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素（1） 地球の特質 4 環境の諸要素（2） 地形環境 5 環境の諸要素（3） 気候環境 6 環境の諸要素（4） 植生と土壌 生態系 7 熱帯地域（1）—自然的特質と伝統的農業 8 熱帯地域（2）—アジアの稲作 9 熱帯地域（3）—熱帯の開発と問題（1） 10 熱帯地域（4）—熱帯の開発と問題（2） 11 砂漠地域（1）—自然的特質と伝統的生業 12 砂漠地域（2）—イスラムの世界 13 砂漠地域（3）—石油資源と近代化 14 砂漠地域（4）—アラブとイスラエル 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験	

13 年度以降	地理学 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。		1 温帯地域（1）自然的特質 2 温帯地域（2）地中海森林地域 3 温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4 温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5 温帯地域（5）北米の温帯地域（1） 6 温帯地域（6）北米の温帯地域（2） 7 温帯地域（7）そのほかの温帯地域（3） 8 冷帯地域 9 冷帯地域・寒帯地域 10 山地地域 11 世界の環境問題（1）人口 12 世界の環境問題（2）食料 13 世界の環境問題（3）酸性雨と公害問題 14 世界の環境問題（4）地球の温暖化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験	

13 年度以降	地理学 I	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーション—地理学とは 2. 環境の諸要素（1）気候環境 3. 環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素（3）地形・植生 5. 熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域（3）熱帯林の保全 8. 沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点 12. 地球環境問題に対する視点（1） 13. 地球環境問題に対する視点（2） 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		期末定期試験の結果（75％）に、授業への参加度（25％）等を加味して、総合的に評価する。	

13 年度以降	地理学 II	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. 環境の諸要素—地形環境 2. 温帯草原地域の自然特性 3. 温帯草原地域の開発と環境問題 4. 温帯混合林地域（1）高密度都市化地域の特性 5. 温帯混合林地域（2）産業革命と都市域の拡大 6. 亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7. 亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8. 山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9. 山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動 11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊 12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題（4）私たちにできること 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		期末定期試験の結果（75％）に、授業への参加度（25％）等を加味して、総合的に評価する。	

13 年度以降	地誌学 I	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌や EU の制度や歴史に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、特に EU の共通農業政策と、地域政策（構造政策）に焦点を当て、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、EU と各地域との関係について考察していく。 *注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合があります。		1. ヨーロッパとは何か 2. EU と地域 3. EU の制度 4. EU の機能 5. EU の政策 6. EU の形成・発展過程(1) 7. EU の形成・発展過程(2) 8. EU の形成・発展過程(3) 9. EU の東方拡大(1) 10. EU の東方拡大(2) 11. EU の農業政策(1) 12. EU の農業政策(2) 13. EU の構造政策(1) 14. EU の構造政策(2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

13 年度以降	地誌学 II	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツの地域や都市の構造とその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて具体的な事例をもとに明らかにしていく。 *注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合があります。		1. 導入：ドイツの地域・都市 2. ドイツ再統一（１）：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一（２）：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一（３）：東ドイツの地方都市 5. ドイツ再統一（４）：冷戦後の旧東ドイツ都市 6. ドイツ再統一（５）：プレントラウアー・ベルク 7. ドイツ再統一（６）：ポツダム広場 8. ヨーロッパ統合（１）：EU とドイツ 9. ヨーロッパ統合（２）：統合と地域間格差 10. ヨーロッパ統合（３）：EU の構造政策、都市政策 11. ヨーロッパ統合（４）：ユーロリージョン 12. 地方分権（１）：多極分散型国家 13. 地方分権（２）：空間整備政策 14. 地方分権（３）：都市計画 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

13 年度以降	国際法 I	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。具体的には、国際法規範の構造、国際法主体としての国家、国家責任、外交関係法、海洋法などをとりあげる。		1 講義の概要 2 国際法の形成と発展 3 国際法の存在形態 4 条約のしくみ 5 慣習法およびその他の規範 6 国際法における国家 7 国家承認と政府承認 8 国家責任の成立要件 9 国家責任の追及 10 外交関係法 11 外交特権免除 12 国家領域としての海洋 13 沿岸国の海洋管轄権の拡大 14 国際公域としての海洋 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年		期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。	

13 年度以降	国際法 II	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際法が、国際社会のさまざまな分野にどのようなかたちで発展しつつあるのかを概観するとともに、そこに生じる紛争が、集団安全保障や裁判を通じてどのように解決が図られているかについて考察する。		1 講義の概要 2 国際法と戦争の違法化国連の集団安全保障 3 国連の集団安全保障 4 国連のもとでの武力行使に関する諸問題 5 平和的紛争解決と仲裁裁判 6 国際司法裁判所 7 国際機構・国際連合 8 国際機構の構造 9 国籍・外国人 10 難民・国際犯罪 11 国連による人権保障 12 人権条約 13 国際環境保全の諸原則と条約 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年		期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。	

13 年度以降	英語通訳	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。		01 ガイダンス / 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス / 通訳者に求められるスキル 03 語彙力増強方法 04 ディクテーション 05 通訳訓練方法 (1) シャドウイング 06 通訳訓練方法 (2) リプロダクション 07 通訳訓練方法 (3) サイトトランスレーション 08 通訳訓練方法 (4) クイックレスポンスなど 09 ゲストスピーカー 10 逐次通訳とノートテキング 11 通訳の実践 (1) 逐次通訳 12 通訳の実践 (2) 同時通訳 13 通訳の実践 (3) ウィスパリング通訳 14 まとめ 15 確認テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		授業中に実施する確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、遅刻 2 回を 1 欠席と見なし、欠席 4 回以上は評価の対象外とする。	

13 年度以降	英語通訳	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降	英語圏の社会と思想 a	担当者	田村 斉敏
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、戦争と詩人の関係を、とりわけ第一次大戦を中心として、考察していきます。いまや前世紀となった 20 世紀は戦争の世紀ともいわれますが、戦争のみならず戦争の表象自体も大きくそれ以前とは変化をしました。その痕跡は、いわゆる戦争詩と言われる作品にも、また一見戦争とは無関係に見える作品にもしばしば確認できます。 戦争は外部からも、また内部からも、詩などの芸術作品を生み出す根底となる理性や感性等の枠組み自体をゆるがせます。また戦争は人に影響を与える原因のみならず人々の思想や行動の結果でもあるため、思わぬ形で詩人が戦争にコミットしているということもまたありえます。 イギリスの第一次世界大戦期に登場した戦争詩人たちや彼らとは全く異なる出自をもつモダニストあるいはその流れに位置づけられる詩人たちを中心に扱いますが、一部小説や映画などを取り入れて、広い角度からこの問題を見ていこうと考えています。		1. イントロダクション：戦争と詩人 2. トマス・ハーディ 3. 戦争詩人 ルパート・ブルック 4. 戦争詩人 シーグフリード・サスーン 5. 戦争詩人 ロバート・グレイヴズ 6. 戦争詩人 アイザック・ローゼンバーグ 7. ウィリアム・バトラー・イェイツ 1 8. ウィリアム・バトラー・イェイツ 2 9. グレイヴズと「ドイツ人」問題 10. 第二次世界大戦へ 11. 間奏 クリストファー・イシャウッド 12. 間奏 カズオ・イシグロ 13. アメリカ詩人 ウォレス・ステイヴンス 14. 現代へ ヒル、ヒーニー、ボランド 15. まとめ ※内容は一部変更される可能性があります	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントを配布して使用。 参考文献は授業時に連絡する。		評価方法：レポート 70%。授業中に課す課題等の評価が 30%。	

13 年度以降	英語圏の社会と思想 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 イギリスのフェミニズム思想と運動の歴史をたどります。フェミニズムとは簡単に言えば女性の権利主張のこと。イギリスのフェミニズムには、メアリ・ウルストンクラフト、J.S.ミル、ヴァージニア・ウルフなど、世界史レベルで著名な思想家がいます。また、参政権運動、アメリカの軍事施設占拠など、直接行動の歴史もユニークです。 今日の世界を理解するのに、階級や民族などと並んでジェンダー（性別）の視点は欠かせません。イギリスのフェミニズムを勉強することで、今日の世界の成り立ちについて、イギリスという具体的な場をとおして知識を得てほしいと思います。 講義概要 毎回、その時代の人々の生の声をいくつか引用してプリントにして、日本語に訳してきてもらいます。担当者（片山）はそれらの「声」の意味や背景について説明しつつ疑問点を提示します。 フェミニズムには正解のない問いがいっぱい。受講者の性別を問わず、みんなでディスカッションして理解を深めましょう。		1. はじめに 2. 中世から近代初期（1）：キリスト教と女性 3. 中世から近代初期（2）：世俗の場でのフェミニズム 4. 18 世紀：メアリ・ウルストンクラフト 5. 19 世紀（1）：J.S.ミル 6. 19 世紀（2）：.ナイチンゲール 7. 19 世紀（3）：個人から集団へ 8. 19 世紀から 20 世紀へ（1）：女性参政権運動 9. 19 世紀から 20 世紀へ（2）：参政権運動の過激化 10. 戦間期のフェミニズム（1）：パースコントロール運動 11. 戦間期のフェミニズム（2）：ヴァージニア・ウルフ 12. 20 世紀後半（1）：第二波フェミニズム運動 13. 20 世紀後半（2）：グリーンナム占拠 14. 20 世紀から 21 世紀へ：ブラック・フェミニズム 15. まとめ （各回タイトル・内容は一部変更することがあります。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
Margaret Walters, <i>Feminism: A Very Short Introduction</i> (OUP: Oxford, 2005). 参考文献は授業で提示		課題プリント約 3 割、学期末試験約 7 割。ただし授業回数 の 2/3 を越えて欠席した場合、評価対象としない。	

13 年度以降	社会経済史 a	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
◎中世の人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勅進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 (1) 東大寺を再建した男 (2) 重源の時代 (3) 信仰と経済		① 炎上する東大寺 ② 誰の力に頼るか ③ 重源の業績 ④ 木材をどこから運ぶか ⑤ 出現した大群衆 ⑥ 雨を突いて伊勢へ ⑦ 重源の記憶 ⑧ 法然と重源 ⑨ 合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ⑩ 天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫病（えきい） ⑪ 源平合戦の余燼 ⑫ 聖の社会事業 ⑬ 新しい経済社会の出現 ⑭ 後生の約束 ⑮ 「荘園」外の経済	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス） （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと） 参考文献 拙著『楠木正成』（吉川弘文館）		試験成績(100%)による。	

13 年度以降	社会経済史 b	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
◎ 中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 (1) 戦乱の中の伊賀 (2) 自立する村 (3) 戦国のコンミュン		① 伊賀国の南北朝内乱 ② 錯綜する地侍の行動 ③ 大規模な合戦は続けられない ④ 国人領主の出現 ⑤ 自立する村 ⑥ 南都への志向 ⑦ 悪党たち、起請文を提出 ⑧ タテの力とヨコの力 ⑨ 惣国のコンミュン ⑩ 内部の規律と「平和」 ⑪ 織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫ 崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬ 兵農分離と石高制 ⑭ 中世民衆の共同体をどうみるか ⑮ 荘園史のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス） （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと） 参考文献 拙著『楠木正成』（吉川弘文館）		試験成績(100%)による。	

13 年度以降	社会思想史 a	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。 前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「市場というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。		1) 授業の狙いについて 2) 「社会」という思想問題 3) 「市民社会」の原型と近代的再生 4) ルネッサンス思想と古典古代文化 5) マキャベリと『君主論』 6) マキャベリと近代政治理論 7) ユートピアという思想 8) トマス・モアと『ユートピア』 9) 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 10) ルターの改革運動と神学 11) ルターの政治思想 12) ルターの職業思想 13) カルヴィニズムの宗教思想 14) カルヴィニズムと近代的エートス 15) まとめー主権国家と市場社会	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 『社会思想の歴史』 渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示		期末の試験による	

13 年度以降	社会思想史 b	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るため、契約という行為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「市場というまとまり」が隠れた主題となる。		1) 授業の狙いについて 2) 西欧自然法思想の源泉 3) 自然法思想の近代的転回 4) 社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 5) 社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 6) 個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 7) 個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 8) 文明化という課題……フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 9) 風土と社会……モンテスキューの権力論 10) 個人と社会の一体化(1)……ルソーの歴史認識 11) 個人と社会の一体化(2)……ルソーのデモクラシー 12) 社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 13) 社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社會思想 14) 社会的に生きる(1)……社会主義の思想 15) 社会的に生きる(2)……マルクスの思想	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 『社会思想の歴史』 渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示		期末の試験による	

13 年度以降	社会思想史 a	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史aでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。		1. (インド)アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド)ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド)ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド)原始仏教 5. (インド)原始仏教 6. (インド)仏教とヒンドゥー教の思想 7. (中国)孔子と論語 8. (中国)孔子と論語の思想と墨子の兼愛 9. (中国)老荘思想 10. (中国)儒教と老荘思想 11. (中国)儒教の意味 12. (日本)無常思想 13. (日本)無常思想 14. 中世の東洋思想のまとめ 15. 中世の東洋思想のまとめと質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		授業貢献度（20％）とレポート（80％）による評価	

13 年度以降	社会思想史 b	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史bでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。		1. (インド)仏教哲学 2. (インド)仏教哲学 3. (インド)仏教哲学 4. (インド)ガンジー非暴力思想と現代 5. (中国)宋学Ⅰ 6. (中国)宋学Ⅱ 7. (中国)宋学Ⅲ 8. (中国)宋学Ⅳ 9. (中国)宋学Ⅴ 10. (日本)本居宣長の思想 11. (日本)本居宣長の思想 12. (日本)京都学派の哲学 13. (日本)京都学派の哲学Ⅱ 14. (日本)京都学派の哲学Ⅲ 15. 東洋思想史の現代的意義と質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		授業貢献度（20％）とレポート（80％）による評価	

13 年度以降	外国経済史 a	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
現代経済の起点であるイギリス産業革命を対象とし、その特徴と問題点を多面的に考察する。 (注意事項) ①最新のシラバスを第1回の授業で配布するので、履修希望者は必ず出席すること。 ②出席は第1回より毎回取る。欠席が4回になると単位は認定されない。 ③試験は定期試験期間中に持ち込み無し、論述問題で行う。 ④評価方法は、2年生、3年生、4年生ともに共通である。 ⑤この授業は、a,bの順番で履修することを前提としている。		1. ガイダンス。序論：産業革命とは何か？ 2. 序論（続） 3. 産業革命の前提条件(1)イギリス農業の発展 4. (同上) (2)イギリス家内工業の発展 5. 技術革新と工場制生産の出現 6. (同上) 7. 動力源の技術革新 8. 製鉄業の技術革新 9. 交通手段の技術革新：鉄道の出現 10. 企業家と事業形態 11. (同上) 12. イギリス産業革命と世界市場 13. (同上) 14. イギリス産業革命の波及 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で説明する。		欠席が4回以内であることと、定期試験成績60点以上の両方の条件を満たすことが単位認定の条件である。	

13 年度以降	外国経済史 b	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
イギリスに遅れて産業革命を展開した後発国の事例としてドイツを取り上げ、ドイツ産業革命の特徴と問題点をイギリスと比較しつつ考察する。 (注意事項) 春学期に同じ。		1. ガイダンス。序論：後発国産業革命の特徴と問題点 2. 序論（続） 3. 産業革命前夜のドイツ経済 4. 産業革命の前提条件の形成(1)プロイセン改革 5. (同上) 6. 産業革命の前提条件の形成(2)ドイツ関税同盟の成立 7. (同上) 8. ドイツ産業革命の展開(1)綿工業 9. ドイツ産業革命の展開(2)製鉄業 10. ドイツ産業革命と産業技術教育 11. (同上) 12. ドイツ産業革命と鉄道業 13. (同上) 14. ドイツ産業革命と銀行業 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

13 年度以降	日本国憲法	担当者	古関 彰一
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期で日本国憲法全般を講義することになります。 従って、日本国憲法の人権と統治機構全般に及びますが、15 回という制約がありますので、人権と統治機構の主要な論点を講義することになります。 春学期だけで憲法全般を講ずることはかなりむづかしいことですが、以下のような計画案で行います。		1 開講にあたって（近代憲法とはなにか） 2 基本的人権の歴史 3 明治憲法の構造 4 平和主義と憲法 9 条 5 日米安保条約の構造 6 基本的人権適用と公共の福祉 7 選挙権の法的性格と選挙定数 8 平等権の概念 9 選挙定数と裁判例 10 表現の自由の意義 11 表現の自由と名誉・プライバシー 12 環境権の法的性格と判例 13 国会の地位と権能 14 司法権の意味、範囲、限界 15 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法・第五版』（岩波書店、2007 年）、長谷部・石川・宍戸編『憲法判例百選・第 6 版』（有斐閣、2013 年）		春学期の最後の試験期間中に論述試験を行い、それにより評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降	日本国憲法	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目標> 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 <講義概要> 憲法概念からはじめ、憲法 26 条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。 最初の講義で「予定表」を配布する。 <受講生への要望> 『六法』は、必ず毎回もってくること。		1. オリエンテーション 2. 六法の使い方／憲法概念 3. 人権総論 4. 憲法制定略史 5. 法の下での平等 6. 精神的自由権／信教の自由 7. 精神的自由権／政教分離 8. 精神的自由権／学問の自由 9. 精神的自由権／表現の自由（1） 10. 精神的自由権／表現の自由（2） 11. 人身の自由 12. 社会権／生存権（1） 13. 社会権／生存権（2） 14. 社会権／教育権 15. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤一彦『教職教養憲法 15 話 [改訂 2 版]』（北樹出版） 柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）		定期試験による。	

13 年度以降	日本国憲法	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降	コンピュータ入門 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでの調査研究において必要となる、情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なるスキルではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 毎回のレポート提出は、ポータルサイトを利用する。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。		1. 講義概要と注意 2. 利用のための準備と設定 3. コンピュータの構造 4. インターネットの基礎と利用(ドメイン、情報検索) 5. ワードプロセッサの基礎と応用(表、図) 6. レポート作成 7. 表計算ソフトへのデータ入力とグラフ作成 8. 関数を使った計算 1 (合計、平均、標準偏差、相対参照と絶対参照) 9. 関数を使った計算 2 (IF 関数、AND、OR) 10. 関数を使った計算 3 (VLOOKUP、IF 関数との組み合わせ) 11. データの再集計 (ピボットテーブル) 12. データの並び替えと目的データの抽出、操作の記録(マクロ) 13. プレゼンテーションソフトの基礎と利用 14. プレゼンテーションソフトで調査資料作成 15. 課題作成	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ、堀江郁美他『大学で必要な情報基礎』日経 B P 社 森夏節、立田ルミ他『日経パソコン Edu で学ぶ』、日経 B P 社		レポート・50%、試験・50%	

13 年度以降	コンピュータ入門 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、経済学部で学ぶ上で役に立つ表計算の関数について学ぶとともに、プログラミングの基本についても学ぶ。 表計算ソフトは、数式や関数により計算を行うことや得られたデータをグラフ化するだけではなく、より複雑なデータ分析や処理に利用することが可能である。またコンピュータを利用することで、複雑な数式を記述することなく処理を行い、結果をグラフィカルに確認することが可能となる。本講義ではさまざまな例題を用いて、表計算ソフトによりデータ分析を行う方法を学ぶ。 大量のデータに対して同様の処理をくり返す際には、表計算ソフトでの操作を記録して利用するマクロ機能が有効となる。この講義では操作を記録するだけでなく、操作内容を追加して記述し、データ処理を効率的に行う方法についても学ぶ。		1. 講義の進め方について 2. 複利計算とローン返済計画 3. 利子率の計算 (ソルバー、What-if 分析の使い方) 4. データの変化量の計算 (微分) 5. データの特徴を抽出する (移動平均、ヒストグラム、回帰分析) 6. 効率的な作業配分 (0-1 整数計画問題) 7. 限られた資源の有効活用 (線形計画法) 8. 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 9. 簡単な処理とプログラム 10. 簡単なアルゴリズムと場合分けプログラム 11. アルゴリズムとプログラム 12. 繰り返し処理とプログラム 13. 場合分けと繰り返し処理のプログラム 14. インタラクティブなプログラム 15. 課題の作成 (担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成する)	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書または印刷物		レポート・50%、試験・50%	

11 年度以前 12 年度以降	図書館概論 図書館概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(目標) 図書館全体にわたっての基本的知識を理解していること。 また、図書館の現状を把握し、課題について自分の意見や考えを述べるができること。 (講義概要) 図書館の機能と役割の基本について学習する。図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。		(1). はじめに。図書館の現状と動向について。 (2). 図書館の構成要素と機能。図書館の社会的意義。 (3). 図書館の法的基盤と図書館政策。 (4). 知的自由と図書館。 (5). 「図書館の自由に関する宣言」と「図書館員の倫理領」。 (6). 図書館の歴史。 (7). 公共図書館の成立と展開、現状と課題。 公共公立図書館と公共私立図書館。 (8). 地域社会と公共図書館の役割。利用者のニーズ。 (9). 学校図書館の現状と公共図書館との連携。 (10). 大学図書館の現状と課題。 (11). 専門図書館や国会図書館の現状と課題。 (12). 図書館員の役割と資質、資格。現状と課題。 (13). 図書館の類縁機関と現状と課題。 (14). 国際社会での図書館活動。 (15). 図書館の課題と展望。	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト)塩見昇編『図書館概論 5 訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ III-1) 日本図書館協会発行、2013 年		課題(30%)、期末試験(70%)で評価する。	

11 年度以前 12 年度以降	図書館経営論 図書館制度・経営論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(目標・ねらい) 図書館制度や法政策について学習し、そのうえで、資料管理、人事管理、施設管理を実施するための現状と課題を考え、さらに図書館活動サービス計画の企画・運営、予算決算、調査と評価などを学ぶ。実際の事例を研究することで、実務的な課題解決管理判断力を養成する。 (講義概要) 資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容について把握し、実施のための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕などを、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディ(事例研究)として議論しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。		(1) 情報社会と図書館の情報戦略。 (2) 企業や公的セクターの経営理論。 (3) 図書館法を始めとする図書館関連法群と政策、それにとりまう図書館経営の実態 (4) 地方自治体の図書館関連条例と図書館政策。 (5) 事業計画策定と評価。 (6) 事例研究①図書館サービス活動にとりまう事例。 (7) 事例研究による議論と発表。 (8) 財政と図書館経営－PFI や委託の問題、予算の獲得など－ (9) 人事管理－専門職の役割と委託などの問題－ 図書館組織と運営。 (10) 事例研究②) 人事管理にとりまう事例。 (11) 事例研究による議論と発表。 (12) 図書館の施設と設備。場所としての図書館運営。 (13) 事例研究③) 図書館サービス業務の数的・質的調査と評価。 (14) 事例研究(4) 危機管理に関する事例。 (15) 事例研究による議論と発表。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、授業で資料を配布する。		授業参加及びチームワークによるプレゼン(60%)、課題(20%)、テスト(20%)で評価する。事例研究のためチームワークに最重点をおく。	

11 年度以前 12 年度以降	図書館サービス論 図書館サービス概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的・目標・ねらい) 図書館サービス活動の現状と課題を認識し、その活動の意義と目的、社会との関連を理解し、発展的サービス活動について考察、企画、評価できること。 (講義概要) 公共公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何か、図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに課題解決支援、障害者支援、高齢者・未成年者向け支援、多文化サービスなど各種サービスの特質を明らかにする。利用者への直接支援活動として、担当者の接遇や利用者やボランティアとのコミュニケーション等の基本について学習する。		(1) 図書館サービスの意義と考え方、変遷など。 (2) 来館者へのサービス。貸出、利用援助など。 (3) 資料提供の基礎；場所としての図書館 (4) 資料提供の展開；貸出、予約など。 (5) 資料提供の展開；プロモーション活動。 (6) 情報提供；利用者のニーズへの対応、レファレンス等 (7) 集会・文化活動、行事など。 (8) 利用対象者別サービス；障害者、障害児への支援活動。 (9) 利用対象者別サービス；高齢者、未成年者、外国人への支援活動。 (10) 地域社会への支援活動；課題解決支援、ビジネス支援 (11) 図書館マーケティング活動；利用者の交流の場としての図書館 (12) 図書館経営；図書館サービスとマネジメント (13) 図書館サービスと著作権。 (14) 人的資源と図書館サービス；接遇、コミュニケーションなど。 (15) 図書館サービスの連携とネットワーク。	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト)『図書館サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ-3) 日本図書館協会発行、2010 年		小テスト 1 回 (30%)、小レポート 1 回 (30%)、期末試験 (40%)	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

11 年度以前 12 年度以降	情報サービス論 a 情報サービス論	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、各種検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスに関する概念の総合的な理解を目指す。 【概要】 まず、図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービスや情報検索サービス等の各種情報サービスの方法を概観する。また、情報サービスにおいて利用される情報源について解説する。そして、図書館利用教育や発信型情報サービス等の新しいサービスについて論じる。		1. ガイダンス；身の回りの情報サービス：獨協大学図書館の情報サービス 2. 情報社会と図書館の情報サービス 3. レファレンスサービス 4. 利用案内、レフェラルサービス 5. カレントアウェアネスサービス 6. 情報検索サービス 7. 発展的情報サービス（読書相談、図書館利用教育等） 8. 図書館における情報サービスの意義と種類のまとめ（質疑応答を含む） 9. 情報サービスで用いる情報源の特質と利用法 10. 情報サービスで用いる情報源の解説、評価、組織化 11. レファレンスサービスの理論（利用者の情報行動、レファレンスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等） 12. レファレンスサービスの実践（レファレンスサービスの体制づくり・実施・普及、現状と問題点等） 13. 発信型情報サービスの意義と方法 14. 最新の情報サービス 15. これからの図書館と情報サービス；授業全体のまとめ（質疑応答を含む）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末レポート（50%）。平常授業における課題レポートなどの実績（50%）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

11 年度以前 12 年度以降	情報サービス論 b 情報サービス演習(前半)	担当者	気谷 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、情報サービスの設計から評価に至る各種の業務および各種情報源を活用したレファレンス調査、発信型情報サービスの演習を通し、情報サービスの実践的な能力を養成することである。 具体的には、情報の専門家として必要なスキルを養成するために必要な情報検索サービス、レファレンスサービス、情報教育、発信型情報サービスなどの情報サービスに関する演習を行う。 情報サービス論 b / 情報サービス演習(前半)では、特に基本的なレファレンスツールについて扱う。		1. 情報サービスの設計と評価 2. 情報サービス演習の準備 3. レファレンスコレクションの整備 4. 情報資源の探し方 5. Web ページ、Web サイト 6. 図書情報の取扱い方 7. CiNii-Books,NDL を使った日本の所蔵館の探し方 8. LC,BL,Worldcat を使った外国の所蔵館の探し方 9. 言葉の探し方 10. 事柄の探し方 11. 歴史の探し方 12. 地理の探し方 13. 人物情報の探し方 14. 企業・団体情報の探し方 15. インフォメーションファイル	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房 978-488367-207-3		授業への参加度 20 % 提出物 20 % 定期試験 60 %	

11 年度以前 12 年度以降	情報検索演習 情報サービス演習(後半)	担当者	気谷 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、情報サービスの設計から評価に至る各種の業務および各種情報源を活用したレファレンス調査、発信型情報サービスの演習を通し、情報サービスの実践的な能力を養成することである。 具体的には、情報の専門家として必要なスキルを養成するために必要な情報検索サービス、レファレンスサービス、情報教育、発信型情報サービスなどの情報サービスに関する演習を行う。 情報検索演習 / 情報サービス演習(後半)では、電子資料を中心とする専門的なレファレンスツールについて扱う。		1. 検索の基本 2. 国立国会図書館 3. 雑誌情報の取扱い方 4. CiNii-Articles を使った日本の論文の探し方 5. 雑誌および雑誌記事の探し方 6. ERIC を使った教育学文献の探し方 7. GeNii:国立情報学研究所 8. 新聞記事の探し方 9. e-STAT を使った政府統計の探し方 10. J-Global:科学技術振興機構 11. 法律情報の取扱い方 12. 法令データ提供システムを使った法令情報の探し方 13. パスファインダーの企画書作成 14. パスファインダーの作成 15. 特許電子図書館(IPDL)を使った特許情報の探し方	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房 978-488367-207-3		授業への参加度 20 % 提出物 20 % 定期試験 60 %	

11 年度以前 12 年度以降	図書館資料論 図書館情報資源概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的・ねらい) 図書館全体にわたっての基本的知識を理解していること。 また、図書館の現状を把握し、課題について自分の意見や考えを述べるができること。 (講義概要) 図書館の機能と役割の基本について学習する。図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。		(1). 図書館資料の定義 UNIT 1～4 (2). 図書館における知的自由、検閲と焚書 UNIT27～30 (3). 印刷資料メディアと非印刷資料メディアの類型と特質 UNIT5～12 (4). 電子資料メディアの類型と特質 UNIT13～17 (5). 特殊資料や専門資料メディアの類型と特質 UNIT18～20 (6). 地域資料、行政資料、灰色文献など UNIT18～20 (7). 出版・流通・販売に関する基本的知識 UNIT23～26 (8). 人文科学・社会科学分野の基本的資料 UNIT21 (9). 自然科学・技術分野の基本的資料 UNIT22 (10). 著者と著作権 (11). 図書館資料コレクション選択と理論 UNIT31～38 (12). 図書館資料コレクション形成方針策定 UNIT31～38 (13). コレクション形成の実務 UNIT39～43 (14). コレクション形成の実務 UNIT44～47 (15). メディア転換と資料の保存・廃棄・更新 UNIT48～50	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト)『図書館情報資源概論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ8) 日本図書館協会発行、2012 年		小課題 (30%)、小テスト (30%)、定期試験 (40%) で総合評価する。	

11 年度以前 12 年度以降	専門資料論 図書館情報資源特論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 未成年の図書館利用者向けの「児童サービス論」で概観した資料について、さらに詳しく学ぶ。特にヤングアダルト向けの多様な資料の出版状況について把握する。学校図書館や公共図書館での所蔵資料の選択や提供を考え、現状と課題を学ぶ。 (講義概要) 小学校高学年から高校向けの古典作品や現代作品を読み、10 代読者と読書の傾向を社会の動きや心理学などの分野から考察する。また、学校での調べ学習や「総合的な学習」など課題解決型学習の方法としての資料についても把握する。さらに、まんがやアニメ、電子書籍など多様な資料についても考える。「読む」「書く」ことのできる図書館という場所が支援できる資料について実際の例をふまえていく。		(1) 10 代の読書と読者。社会学・発達心理学・読書心理などから考える。 (2) 公共図書館における YA サービスの現状 (3) 10 代の読書傾向。ローティーンとハイティーンの読書傾向。 (4) 古典と現代作品の比較分析。 (5) 10 代に人気がある作品を読む。「問題小説」など。 (6) 10 代に人気がある作品を読む。「ライトノベル」など。 (7) 図書館で読まれる作品・読まれない作品の傾向。 (8) 多様な資料を読む。雑誌、まんが、アニメなど。 (9) 調べるための資料や 10 代が求める生活情報資料など。 (10) 読書プロモーション。展示やブログ、ブックトークやアニメーション、読書会や創作など。 (11) 実践演習。ブックトークをやってみよう。 (12) 実践演習その 2。ブックトークをやってみよう。 (13) 10 代向けブックリストやパスファインダーなど。 (14) 読書の場所としての図書館の役割。 (15) まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、参考資料等のリストを授業で配布する。		実践演習 (40%)、課題 (2X20=40%)、小テスト (20%)	

11 年度以前 12 年度以降	資料組織概説 情報資源組織論	担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要		授業計画	
○ 講義の目的 図書・逐次刊行物など多様な図書館情報資源の組織化の理論と技術について概説し、情報資源組織演習での学習に備える。 ○ 講義の概要 書誌コントロール、書誌記述法、分類法、主題分析などについての基礎知識を修得する。ネットワーク情報資源など多様な情報資源の組織化、書誌データの活用法を解説する。		1. 授業の進め方 2. 情報資源組織化とは 3. 書誌コントロール 4. 目録の意義 5. 目録の種類 6. 集中目録作業 7. 共同目録作業 8. 目録規則の歴史 9. 次世代目録 10. 主題目録法 11. 分類法の概要 12. 分類法の種類 13. 分類法の歴史 14. 図書記号 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
○ 教科書 志保田務、高鷲忠美編著・平井尊士共著『情報資源組織法』（第一法規、2012 年） ○ 参考書 日本図書館協会編『日本十進分類法 新訂 9 版』（日本図書館協会、1995 年） 日本図書館協会編『基本件名標目表 第 4 版』（日本図書館協会、1999 年） 日本図書館協会編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』（日本図書館協会、2006 年）		期末試験の結果によって評価するが、平常授業における実績も評価対象とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

11 年度以前 12 年度以降	資料組織演習（前半） 情報資源組織演習（前半）	担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要		授業計画	
○ 講義の目的 図書館情報資源の組織化について学習する。演習形式の授業を通じて、情報資源組織化の具体的・実践的な能力の養成をはかる。情報資源組織演習（前半）では、日本目録規則（NCR）1987 年版改訂 3 版に準拠して、目録作成の技法を学ぶ。 ○ 講義の概要 NCR 1987 年版改訂 3 版の主要規則を書誌的事項ごとに解説する。その上で、NCR1987 3R による和資料記入の作成を中心に演習を行う。		1. 授業のガイダンス 2. 日本目録規則（NCR）記述総則 3. 日本目録規則（NCR）記述通則 4. タイトルに関する事項 5. 責任表示に関する事項 6. 版に関する事項 7. 出版・頒布等に関する事項 8. 形態に関する事項 9. シリーズに関する事項 10. 注記に関する事項 11. 標準番号・入手条件に関する事項 12. 標目 13. 和資料記入の作成演習（基礎） 14. 和資料記入の作成演習（応用） 15. 和資料記入の作成演習（発展）	
テキスト、参考文献		評価方法	
○ 教科書 志保田務、高鷲忠美編著・平井尊士共著『情報資源組織法』（第一法規、2012 年） ○ 参考書 日本図書館協会編『日本目録規則. 1987 年版改訂 3 版』（日本図書館協会、2006 年）		演習（小テスト）の結果によって評価するが、平常授業における実績も評価対象とする	

11 年度以前 12 年度以降	資料組織演習（後半） 情報資源組織演習（後半）	担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要		授業計画	
○ 講義の目的 情報資源の組織化に関する技術について、演習形式で学習する。多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成などの演習を通じて、情報資源組織業務についての実践的な能力を養成する。 ○ 講義の概要 NDC9 の概要・分類規程を解説した上で、NDC9 による分類記号の付与の演習を行う。次に BSH4 の概要・件名規程を解説した上で、BSH4 による件名付与の演習を行う。		1. 授業の説明 2. 日本十進分類法（NDC）の概説 3. 分類規程 4. 主題分析 5. 分類記号の付与 1 類・2 類 6. 分類記号の付与 3 類 7. 分類記号の付与 4 類・5 類 8. 分類記号の付与 6 類・7 類 9. 分類記号の付与 8 類・9 類 10. 分類記号の付与 0 類・応用問題 11. 基本件名標目表（BSH）の概説 12. 件名規程 13. 件名標目の付与（基礎） 14. 件名標目の付与（応用） 15. 件名標目の付与（発展）	
テキスト、参考文献		評価方法	
○ 教科書 志保田務、高鷲忠美編著・平井尊士共著『情報資源組織法』（第一法規、2012 年） ○ 参考書 日本図書館協会編『日本十進分類法. 新訂 9 版』（日本図書館協会、1995 年） 日本図書館協会編『基本件名標目表. 第 4 版』（日本図書館協会、1999 年）		演習（小テスト）の結果によって評価するが、平常授業における実績も評価対象とする	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

11 年度以前 12 年度以降	児童サービス論 児童サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的・ねらい) 子どもやヤングアダルトと称せられる 10 代の図書館利用者（潜在的利用者）に対する戦略的で効果をあげるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA 担当司書を養成することを目的とする。さらに幅広く、多くの児童書や YA 向け資料を読み、評価し、子どもたちに伝えられるようになることを目標とする。 (講義概要) (1) 図書館サービス対象者である子どもやヤングアダルトについて知る、(2) 図書館資料としての子どもや YA 向け資料について知る、(3) 図書館サービスとして子どもや YA と資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る、(4) 地域や学校などとの協働活動について知る、ことを学習する。		(1). 図書館の意義と使命 (2). 民主主義社会と図書館の役割。 (3). 図書館における児童・ヤングアダルトサービスとは何か。 (4). 地域社会における「子ども」のイメージは何か。 (5). 乳幼児サービスと乳幼児向け資料 (6). 小学校など児童対象の図書館サービスと学齢期児童向け資料 (7). 中学校や高校など 10 代のヤングアダルト対象の図書館サービスと資料 (8). 児童・YA 図書館活動の歴史 (9). 子どもをとりまく大人への図書館活動 (10). アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由 (11). 図書館活動をめぐる諸問題－法律と政策、インターネットなど (12). 図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など (13). 児童や YA 向けの図書館建築における設備など (14). 児童・YA 図書館活動における現状と将来 (15). 実践とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト)『児童サービス論 改訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ11) 日本図書館協会発行、2014 年 ※ほかに多くの子ども向け絵本や物語等リストを授業で配布する。(参考)『図書館概論 5 訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ1) 日本図書館協会発行、2013 年		課題(40%)、レポート(30%)、小テスト(30%) ※授業開始までにできるだけ多くの児童書や YA 文学等を読んでおくとい。	

11 年度以前 12 年度以降	図書及び図書館史 図書・図書館史	担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要		授業計画	
○ 講義の目的 図書館の情報資源と図書館の歴史について発展的に学習し、理解を深める。 ○ 講義の概要 図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産、印刷、普及、流通などの歴史を概説する。また、図書館の歴史的発展について解説する。		1. 授業のガイダンス 2. 図書館の源流 3. 紙以前の記録媒体 4. 紙の発明と西伝 5. 図書の形態史 6. 図書館の発達 7. 印刷の歴史 8. 印刷技術の進歩 9. 大量印刷の時代 10. 公共図書館の誕生 11. 雑誌・新聞の歴史 12. マスメディアの誕生 13. 記録媒体の多様化 14. 近代公共図書館の発展 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
小黒浩司編著『図書・図書館史』（日本図書館協会、2013年、JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ）		期末試験の結果によって評価するが、平常授業における実績も評価対象とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以降	図書館情報技術論	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 現代の図書館では、情報や資料の収集・組織化・保存・提供というあらゆる場面において、コンピュータやネットワークを中心としたさまざまな情報技術が利用されている。本講義では、それらの情報技術について、基礎的な概念を理解した上で、図書館においてどのように応用されているかを学習する。 【概要】 図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。また各種情報システムを実際に利用する演習も行う。		1. ガイダンス；身の回りの情報技術：獨協大学のコンピュータとネットワーク 2. コンピュータとネットワークの基礎 3. 情報技術と社会：身の回りの情報メディア 4. インターネットとウェブ 5. ウェブの基本技術：HTTP、URI（URL）、HTML 6. ウェブによる情報の発信 7. 図書館における情報技術活用の現状 8. 図書館業務システムの仕組み 9. データベースの仕組み 10. 検索エンジンの仕組み(1)：情報の収集 11. 検索エンジンの仕組み(2)：索引作成 12. 検索エンジンの仕組み(3)：結果の並べ替え 13. 電子資料とコンピュータシステムの管理 14. デジタルアーカイブ 15. 最新の情報技術と図書館；授業全体のまとめ（質疑応答を含む）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。		期末レポート（50%）。平常授業における課題レポートなどの実績（50%）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以降	図書館情報技術論	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
図書館に關係する情報技術の理論を学び、実習する。 今日、図書館では図書資料の管理だけでなく、さまざまなサービスを提供するために情報技術を用いている。また、電子図書館、電子書籍の出現など今後も情報技術との関連は深くなると考えられる。 この授業では、コンピュータやインターネットの仕組みなどコンピュータの基礎や、情報検索に關係する基礎理論、と現状を学習し、実習する。最終的には、図書館利用者、スタッフの両視点から、現在、そして今後も通用する情報技術を習得することを目的とする。		1. ガイダンス 2. 情報機器の役割と実際 3. コンピュータの仕組みと歴史 4. インターネットの仕組みと歴史 5. 情報技術と社会 6. 情報検索の基礎 7. 情報検索の理論 8. サーチエンジン 9. データベース 10. 情報発信 1 (Web ページ作成) 11. 情報発信 2 (Web ページ作成実習) 12. 電子資料の管理 13. 情報管理の技術と法 14. デジタルアーカイブ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業態度、定期試験、レポートを総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以降	図書館施設論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 図書館活動・サービスが行われる場として、図書館を図書館建築や施設としての場所をどのようにとらえるかを考える。図書館建築計画、地域での活動計画、構成要素など、利用者の年齢層や利用ニーズにあわせた建築・施設を考えていく。 (講義概要) 「図書館制度・経営論」「図書館サービス概論」で学習した内容をふまえて、地域活動の拠点としての場所である図書館建築や設備の実例を国内外から把握する。図書館建築の歴史から図書館活動の変遷を学習する。また、地域振興施策や計画と連動させながら図書館建築の意義を考える。		(1) 公共建築物としての図書館。 (2) 図書館建築や施設、設備の意義と目的。 (3) 図書館建築の歴史。 (4) 公共図書館建築の実例ー海外の場合ー (5) 公共図書館建築の実例ー日本の場合ー (6) 学校図書館メディアセンター。 (7) 大学図書館。ラーニング・コモンズなど。 (8) コミュニティセンターとしての図書館。 (9) 地域振興施策と図書館建築。 (10) 地域振興計画と図書館建築計画。 (11) 設備、家具など。 (12) 危機管理と図書館設備。自然災害と人災に備える。 (13) 利用者ニーズと図書館設備。 (14) キオスク図書館や移動図書館。 (15) 実際に図書館の図面を作成する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で参考資料リストを配布する。		数度の課題 (60%)、小テスト (40%) で評価する。図書館見学等を含む。	

11 年度以前 12 年度以降	図書館特論 図書館サービス特論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的・目標・ねらい) 「図書館サービス概論」「児童サービス論」で学習した内容をふまえ、小学校から高校の学校図書館を対象としての図書館サービス活動について学習する。図書館専門員(学校司書)としての業務内容を把握する。 (講義概要) 幼稚園から高校を対象としての学校図書館での資料選択や調べ学習や総合学習などのレファレンス業務、さらにパスファインダーなどの作成を通じて、積極的な資料情報探索方法を司書教諭との連携によって行うことを、演習を通じて学ぶ。学校ボランティアや教師集団とのコーディネートについても考えていく。 ※学校図書館司書をめざす人のための科目です。教職課程に登録している必要はまったくありません。		(1) 学校図書館と公共図書館。 (2) 学校教育と学校図書館。 (3) 司書と司書教諭、学校司書の役割。 (4) 学校内での学校図書館建築・設備。情報処理教室などとの連携。 (5) 学校図書館のコレクション構築。ブックリスト等の作成。 (6) 学校図書館での資料選択・提供。 (7) 学校図書館における資料の分類と目録化作業。 (8) 貸出業務。学校図書館システム化から地域ネットワークへの参加。 (9) 読書指導と学校図書館の役割。ブックトーク等。 (10) 情報活用教育と学校図書館の役割。 (11) 情報リテラシー教育と学校図書館の役割。 (12) 学校図書館におけるレファレンス業務。パスファインダー作成等。 (13) 地域学校図書館センターと学校図書館。 (14) 学校図書館における知的自由を考える。 (15) 地域と学校図書館。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト・参考文献等については最初の授業でリストにして配布する。		授業内でのプレゼンテーション(30%)、小レポート(20%)、小課題(20%)、小テスト(30%)で評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

シラバス 免許課程

2014年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1663



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	